

七巻目乃記

下の巻

				和書門
		二五〇八四		
	九	函	號	
二	三			
冊	架			

内閣文庫		
二五〇八四	和書	
二	冊	
三架		

内閣文庫		
番號	和	25084
冊數		2 (2)
函號	153	420



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak



10



結記

おのれ終に成むと事。さゆぐゆは今を志ありて
ゆめを事。け書ふ志氣となり。けらうふ用ふ事。け

結もゆめ。用ふ事。け書ふ志氣となり。けらうふ用ふ事。け

事。さゆぐゆは今を志ありて。ゆめを事。け書ふ志氣となり。

おのれ終に成むと事。さゆぐゆは今を志ありて。ゆめを事。

け書ふ志氣となり。けらうふ用ふ事。け結もゆめ。用ふ事。

け書ふ志氣となり。けらうふ用ふ事。け結もゆめ。用ふ事。

け書ふ志氣となり。けらうふ用ふ事。け結もゆめ。用ふ事。

結記

廿七

華山記

[Faint handwritten text in a cursive style, likely bleed-through from the reverse side of the page.]

緒の結び指忌

一 かつお結び又たまの結びと云ふ常結まむまひ乃事之又

五むつびとも云

一 かつお結び又たまの結びと云ふ常結まむまひ乃事之又

端者若小れつと云つと知やとも云 又かつお結とも云

一 まろ目れといふは南方小れを流るを云ふ六の之思ハ常

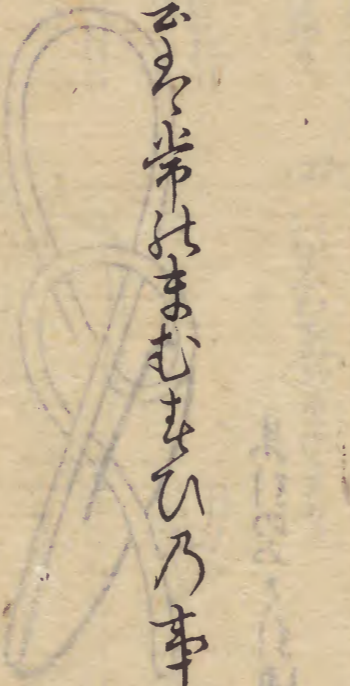
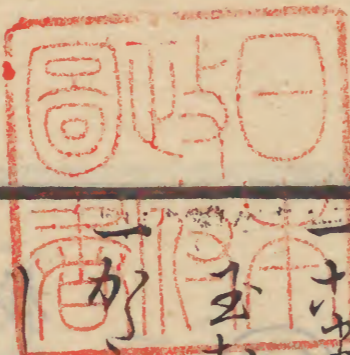
人の志あたるむまむびかさちう 又あつが結とも云

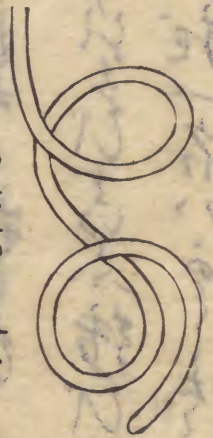
一 せむぢうむまむびとも右のまろ目れ乃事

一 うはまむびといふ結び一名この後とじ一名ハ又かつおかむかむハかむ一名を和

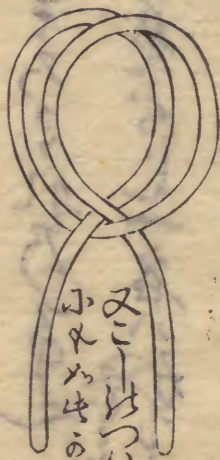
成結一名ハのかむ結とも云むまむび指左のかむ

又一名かむむびとも云むまむびのち小山結の付不時のむび





此二つを引て二つのまな
をまねき下の図はかく糸

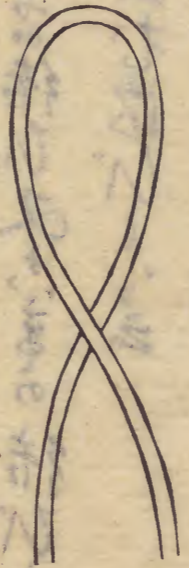


又こはつれをなすのえふ付る
小れん中のはは

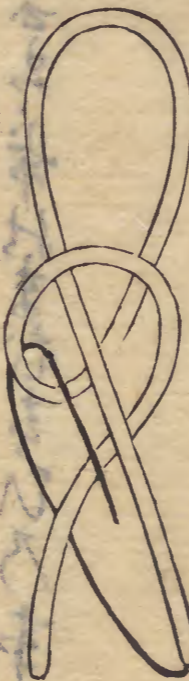
上の図の如く二つのまなをまねきこははふ
ちのこねのなる山袂からほふれ此か

一をよみむはびと云ハ極やらひなと結ぶ時ふも用をむはび
松之下部の若も知事たる結びやう之左の如く

一ゆはちちの



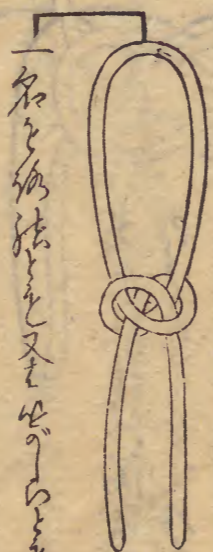
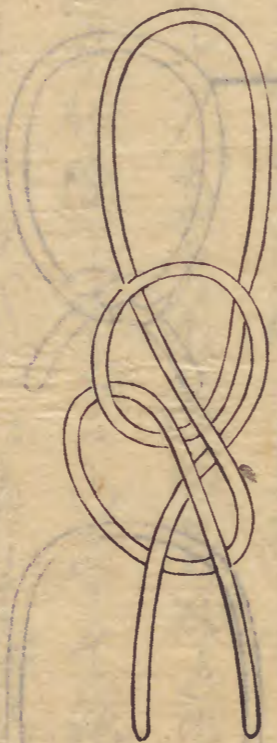
二ゆはちと



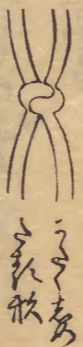
朱引の如く引通は

三 是れ朱引の如く引通ははふある。

四 引通ははふある

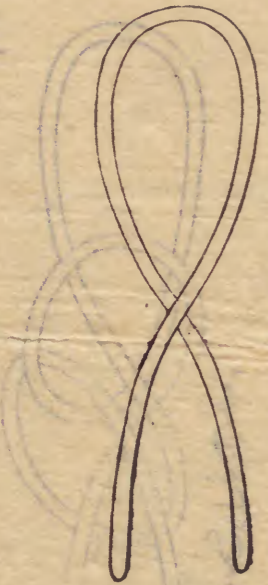


一名を糸結とて又を引のうらとて

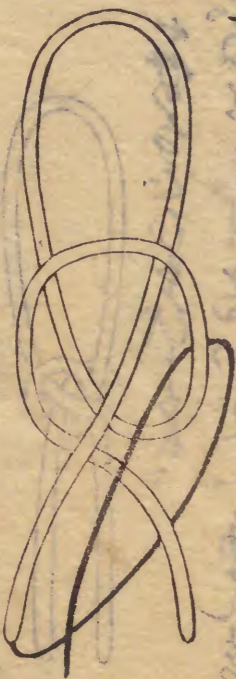


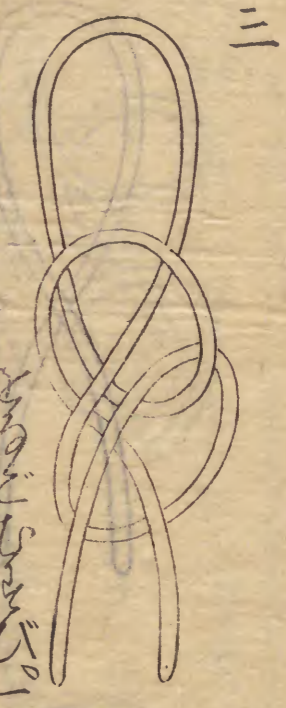
一とらどむとびはだの押とむとびとたからいふなり一をまねきり
糸たよりす男結と女結とびとびとられはまふさるぬの也

一

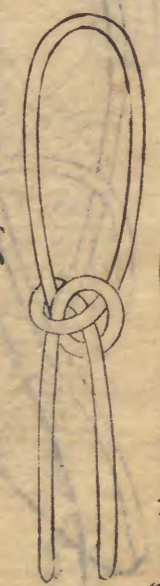


二



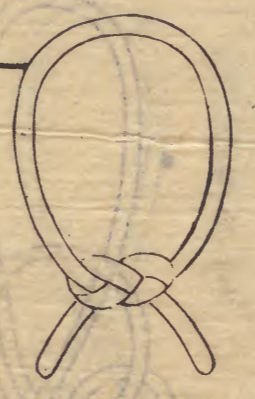


三 三つあしむすび。一名あしむすびと云ふ。

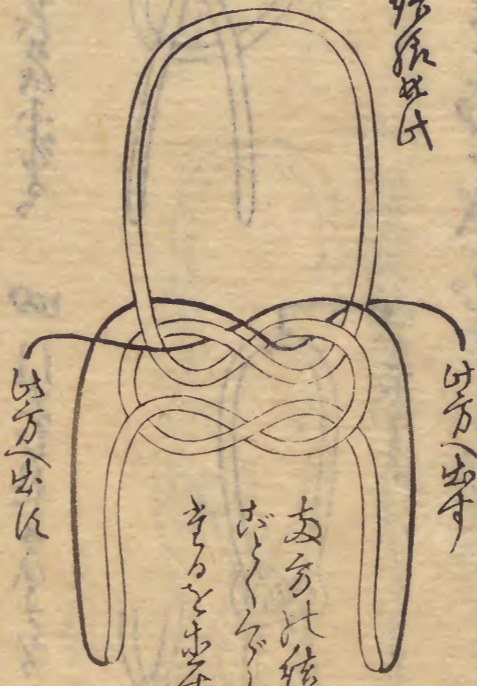


四 かぐしめ たる形

一 ひとむすびむすびむすびす。支那結は楊柳入一厘法び
ウ紙々々々せ。ねぢもぎをねぢうに糸とちと直す形なり。
是丸ねぢい。



むらむすび。

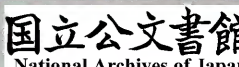
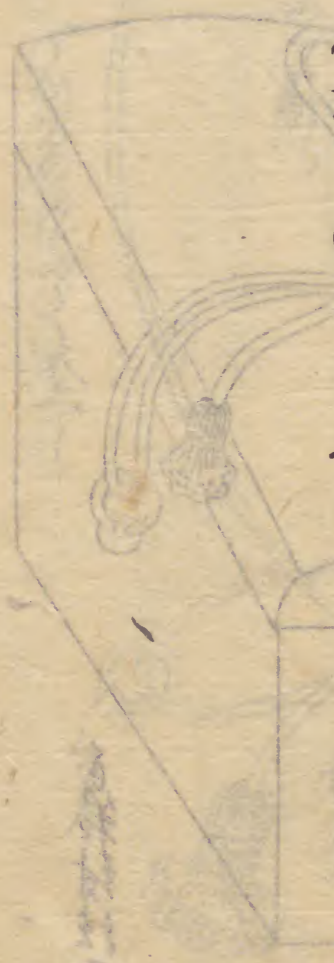


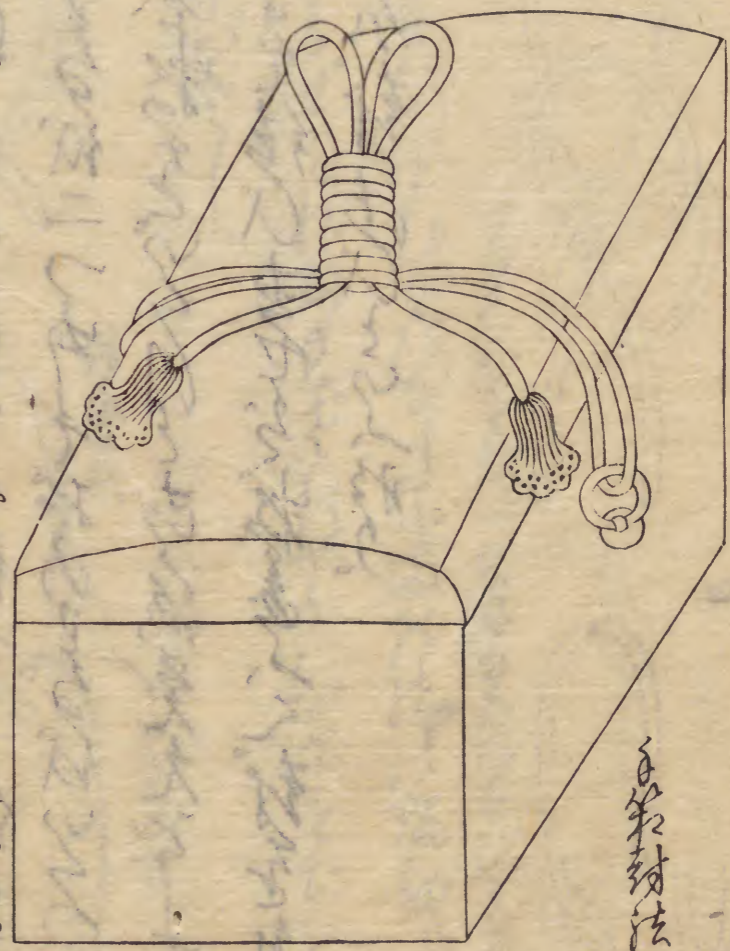
結繩 四

は方出す

支方此結は楊柳舞の
おくくくくせねぢもぎ
きんと出す。

一 手箱の法法びね。封法云結び。手箱比結を一筋。
長七ア。支方小結。以てねぢ。このと紙あひして支方のくまん。
ねぢ紙通しをぶ。このとて結ぶなり。結びやう上。はの
ぶ。う。ま。紙二つあしてねぢの。ま。紙。このと巻を。ま。
ねぢの巻ねを。このと。あ。ねぢ。え。このと巻を。ま。あ。
人。このとて結び。ま。ま。ねぢ。ま。このと巻を。ま。あ。
このとて結び。ま。ま。ねぢ。ま。このと巻を。ま。あ。

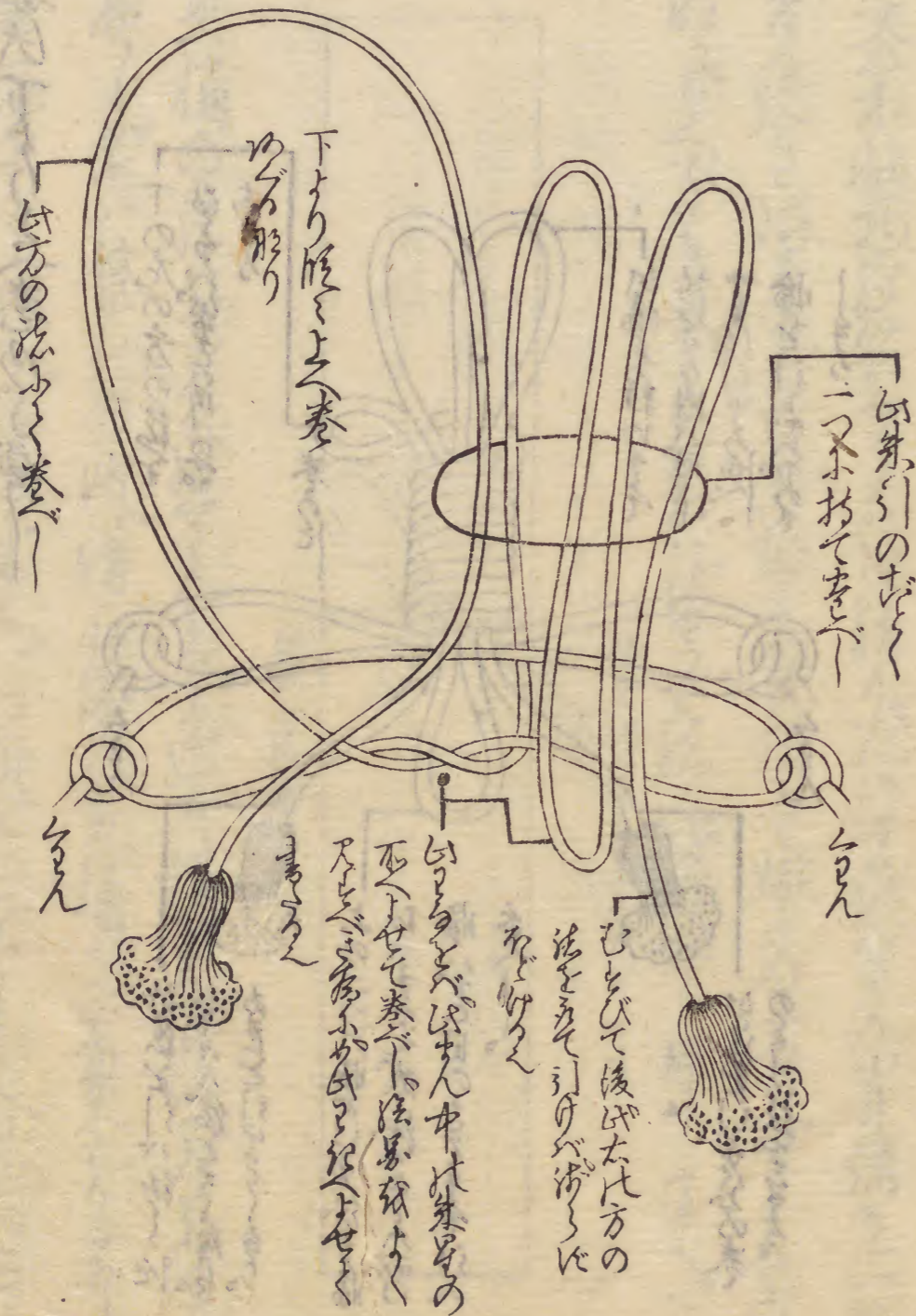




箱封法

ひよび紙
瓦の糸

結び中、先一ひよび紙にて、板土の方には結ぶ。よこを二つ、
 二つ、二つ、二つ、板土の方の法より、ひよび紙にて、一方は土の
 方へ、もう一方は、巻を、一方は、巻を、一方は、巻を、一方は、巻を、



ひよび紙の結び
二つ、二つ、二つ

下より、ひよび紙の巻
ゆづり形

ひよび紙の法より、巻

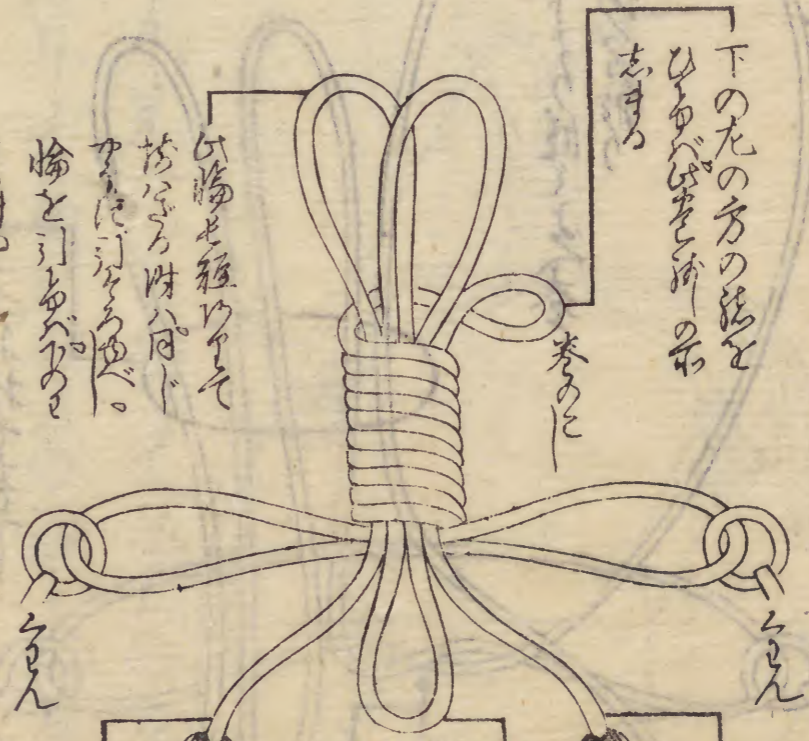
ひよび紙にて、結び、板土の方の
法より、ひよび紙にて、結び、

ひよび紙にて、結び、板土の方の
法より、ひよび紙にて、結び、

ひよび紙

ひよび紙

如以下より上巻めぐる



下の丸の方の法を
ひらきばきし所を
志す

巻めに

ひらきばきし所を
志す

しきり

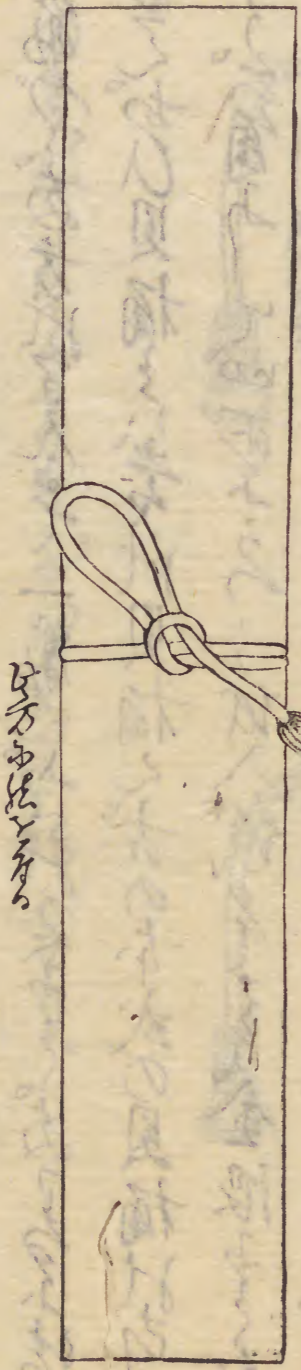
ひらきばきし所を
志す

上の二つは物を引かばしり
あきまるる束をほりしきり
悔は老目のきききききき
きききききききききき

ひらきばきし所を
志す

一文筆油物に紙をかきしり法に丸の方をえん中緒を一筋
分るゆきは方をちの方れえんあきりてゆきあきりてあきりて
形をえんてえんせり紙をかきしり法に丸の方をえん

ひらきばきし所を
志す

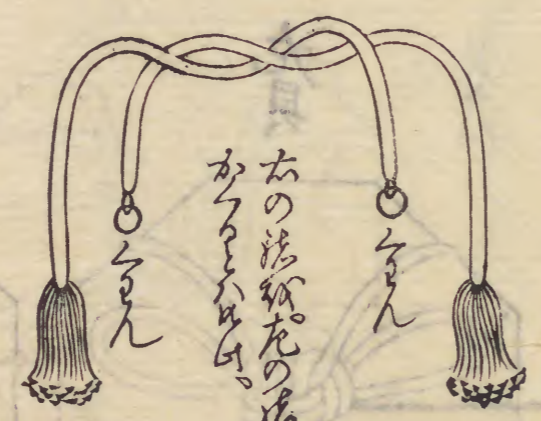


ひらきばきし所を
志す

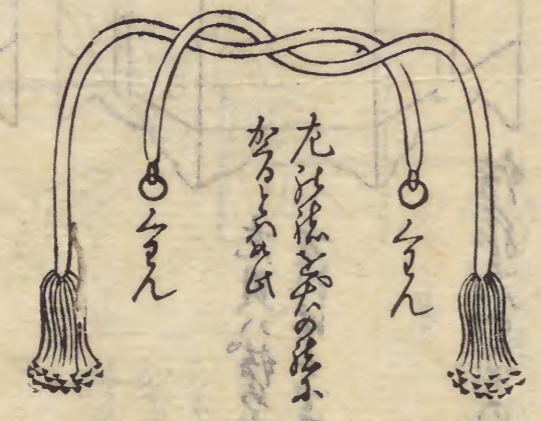
一貝桶の法は、あきりてえんあきりてゆきあきりてあきりて
あきりてあきりてあきりてあきりてあきりてあきりてあきりて
金銀あきりてあきりてあきりてあきりてあきりてあきりてあきりて

かほくをいへり
桶よかどをいへり
おきくはくは桶と
てありまゝかほく
まゝかほくはく
おきくはくは桶と
すなりと甲の核
まゝかほくはく
はくはくはく

貝のついでつゝ入る丸貝はうらふ布。丸貝と丸のあて紙とほく
切て紙木ののり紙有て丸の貝と貝桶の底不布てはくを有て
一はひ貝桶は法を紙の貝桶のおく。丸のついでに緒
一筋づゝ。あてはくを二筋づゝ。あてはくを二筋づゝ。あてはくを二筋づゝ。
一はひ貝桶と丸の貝桶と古の本式の貝桶はくは
やう。丸のついでに四角のついでに紙を有て。金浪を有て。丸の
松竹鶴。飛又源氏の法を有て。丸のついでに緒を
あてはくを有て。丸のついでに緒を有て。丸のついでに緒を有て。
結を有て。丸のついでに緒を有て。丸のついでに緒を有て。
丸のついでに緒を有て。丸のついでに緒を有て。丸のついでに緒を有て。



丸の法紙丸の法不
あてはくを有て



丸の法紙丸の法不
あてはくを有て

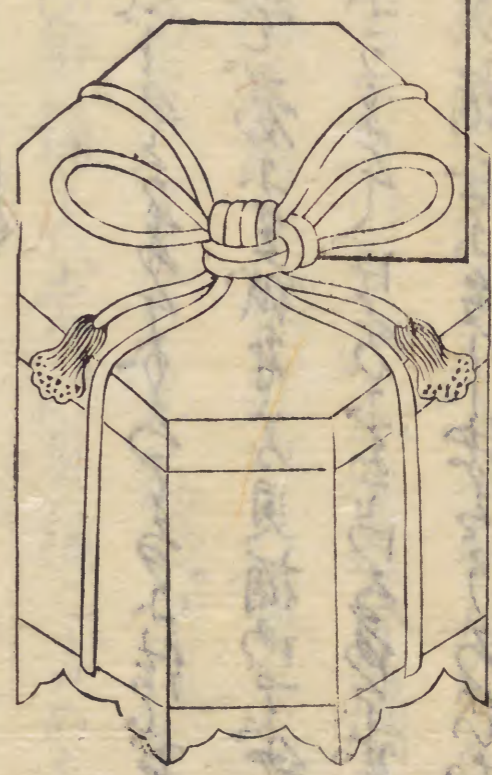
丸のついでに緒を有て。丸のついでに緒を有て。丸のついでに緒を有て。

一 公角のついでに緒を有て。丸のついでに緒を有て。丸のついでに緒を有て。
十又字のついでに緒を有て。丸のついでに緒を有て。丸のついでに緒を有て。
丸のついでに緒を有て。丸のついでに緒を有て。丸のついでに緒を有て。

「女の方よりする」

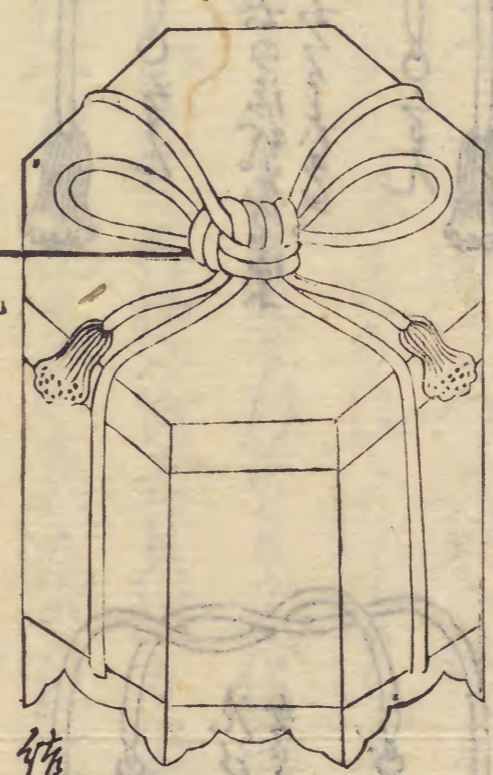
「左の方よりする」

右貝



右貝の結め方の
法よりする

左貝



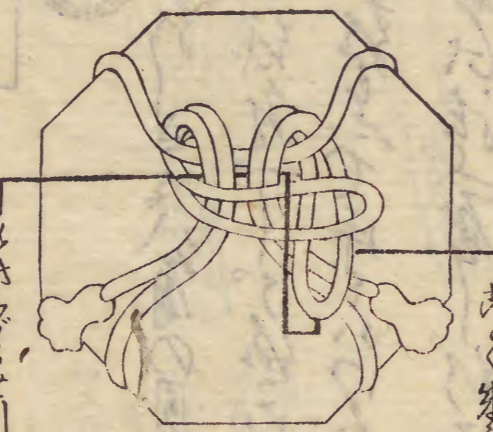
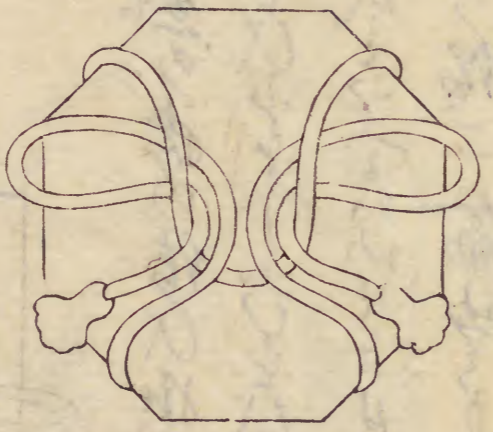
左貝の結め方の
法よりする

丸の方よりする

結糸丸の圓のぶ

先貝

後貝

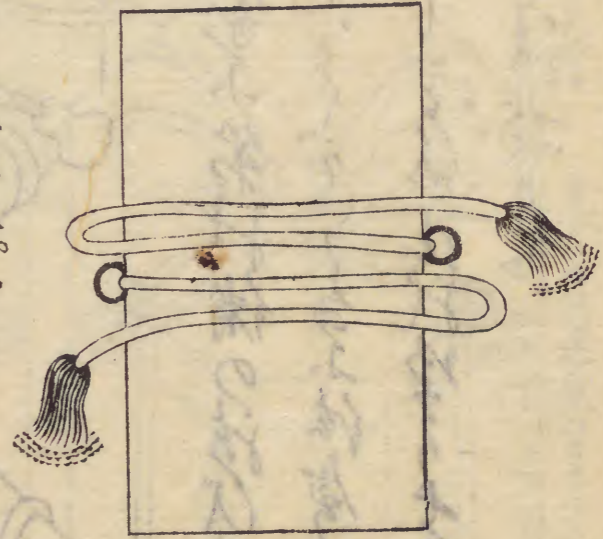


「付る成糸のまゝ
くぐらしておのまの
おとく結ん」

「左貝の結め方
右貝の結め方
は、左貝の結め方
と、右貝の結め方
と、同じである。

「女の方よりする」

一 女の方よりする。商家次第に緒の結びやふなり。女の方よりする法は、
糸を祀すおとく。こうする結め方。右法は、左法よりする。右法は、
おとくを、左法よりする。右法は、左法よりする。結糸丸とは、
二つおとくを、左法よりする。

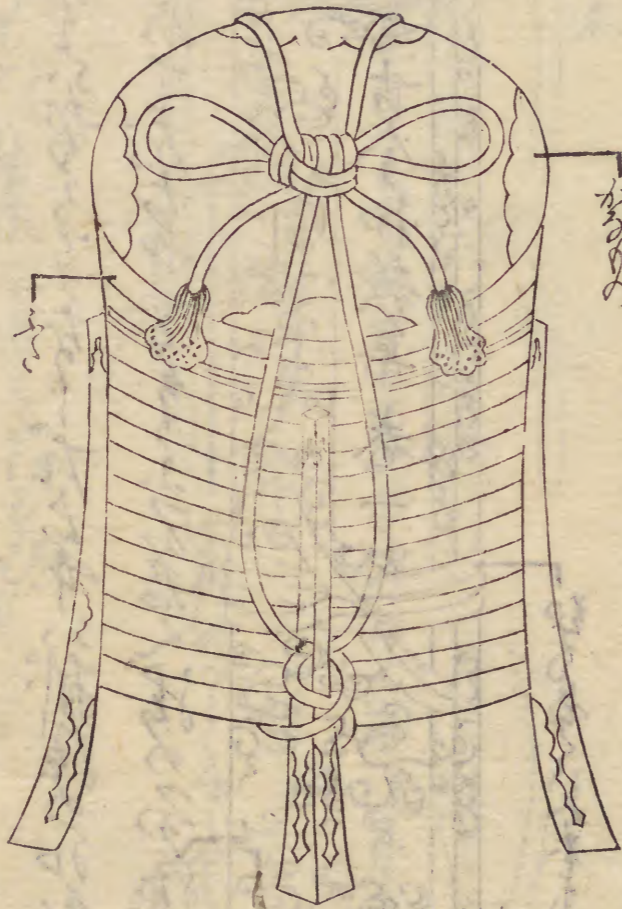


此は二つおちてのちいさな
むしと一輪し丸い油きき
六角八角のきくひしき
きくはひしきかめなり

一行^{やま}の法^りの結び^ばぬ^あふ^まなり^しる^る八角の貝^い桐^のの^めく^うる^こ
むし^びし^となり^しむし^びめ^しふ^まなり^しる^る結^の法^びふ^まなり^しる^るハ
法^式と^しる^る六^つつ^となり^しる^るけ^の法^として^しる^る片^をつ^らなり^しる^る片^を
結^の法^二筋^中なり^しる^るハ^の法^めは^法なり^しる^る結^一對^の時^ハ
八角の貝^桐の^むし^となり^しる^る丸^い油^きき^の對^ふ法^{なり}なり^しる^る

行^まの結^法の^図

かき

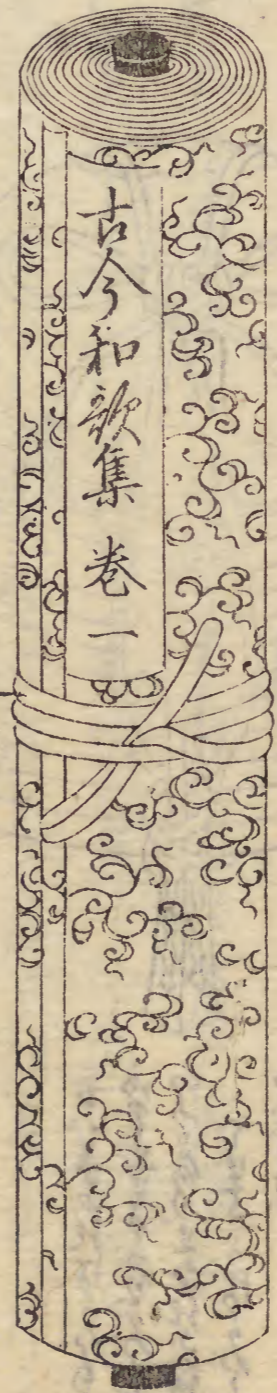


ほろ^の結^り又^しまた^をき^きなり^しる^る大小^をなり^しる^る

古^はなり^しる^るは^りなり^しる^る
ゆ^きなり^しる^るなり^しる^る
ゆ^きなり^しる^るなり^しる^る
ゆ^きなり^しる^るなり^しる^る
ゆ^きなり^しる^るなり^しる^る

行^まの結^り赤^い飯^かん^ぢう^の顔^を物^を入^るゆ^きなり^しる^るハ^の結^り
封^をなり^しる^るなり^しる^るなり^しる^る
一^の物^は結^法なり^しる^るの^{結^り}は^りなり^しる^るなり^しる^るなり^しる^るなり^しる^るなり^しる^る

端紙二つ折ておるは方と巻を結の下に方紙を
 束をさみ魚座しつるは少たの方む多。法の幅が
 掛法ハ三幅等なきは尤太中の方紙折ると
 束の家より折る事あり。尤太中ハ掛法の折紙
 結法として尤太中とさるふ不足は法の
 結法として尤太中とさるふ不足は法の
 結法として尤太中とさるふ不足は法の



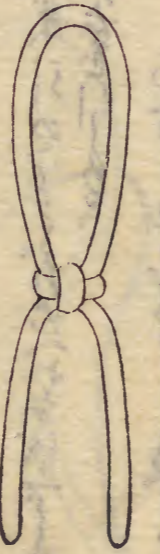
むもちくふ巻もさるる。

懸法の結をどおるふおきも七巻もよる。折紙も巻へ。

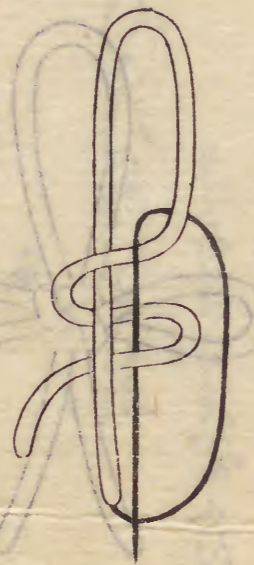
一 ころも結むしび紙



表

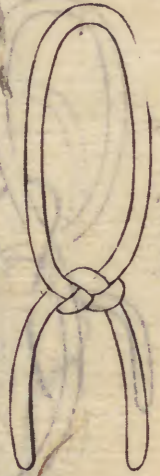


表ハ口と字。裏ハ十の字。がふ時結むは。信紙尤のこ。

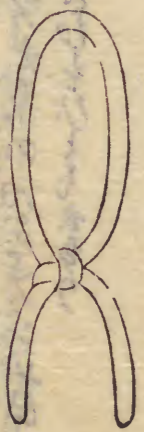


世集のこころも。せりまむ。

一 五折むしび結紙

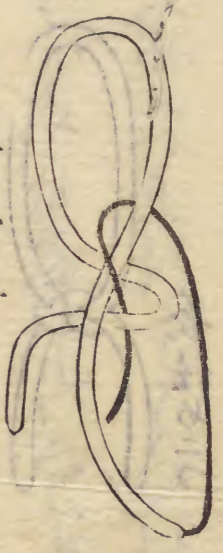


表結め二つ



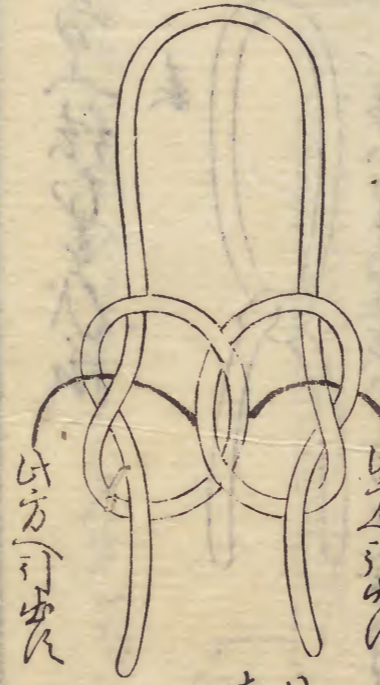
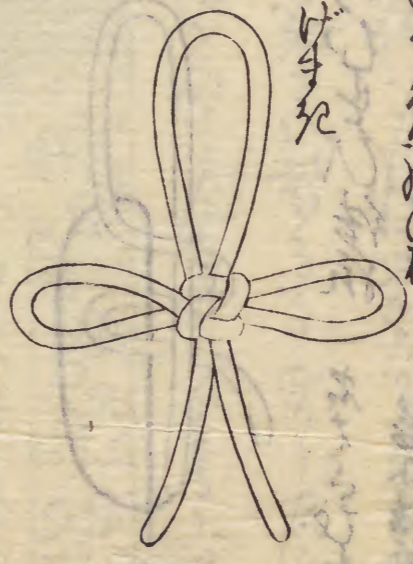
裏結め二つ

名たさむしび。
 裏結め二つ。裏結め二つ。おの結。



一 河げきり結びね

わけ手ね



は方訂ね

は方訂ね

結びねは糸引のこころをせりしめ
たてあふ糸の切きとどめはしてむしり
ゆきむしりもさう

結びねね

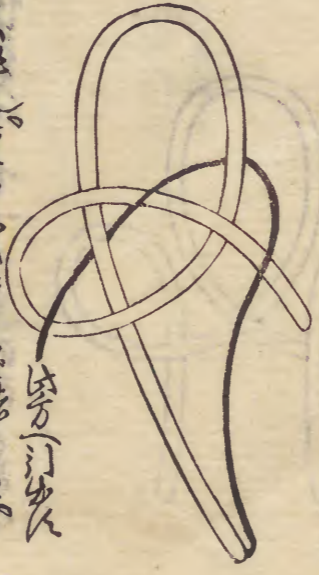
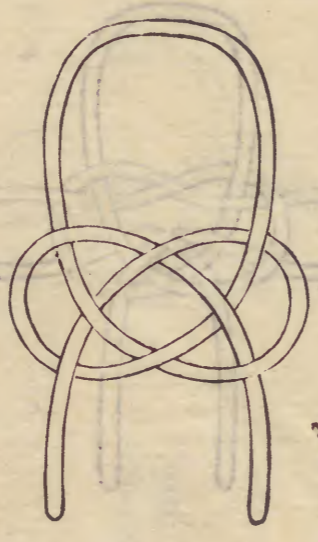
は結びねをたのふさふさ
次のはね

は糸引のこころをたてあふ糸と
たてをりしめ

河げきりねのこころをたてあふ
たてあふ

一 わらび結むとびね

二 糸の養ふねりゆき糸は
結びねは糸引のこころをたてあふ

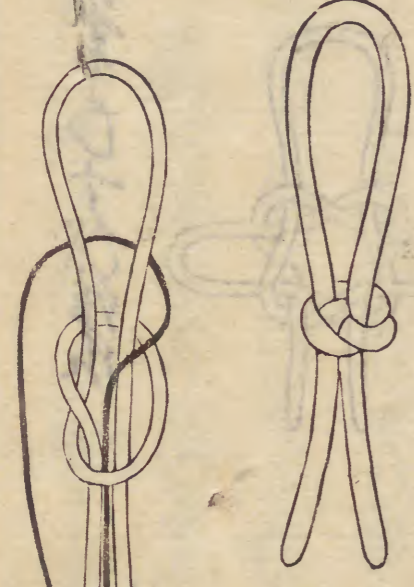


は方訂ね

一 河ひあひ結むとびね

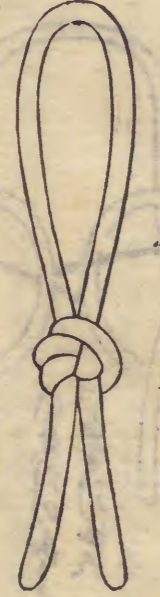
是とあらむとびねは
たてあふ糸の切きとどめはしてむしり

表

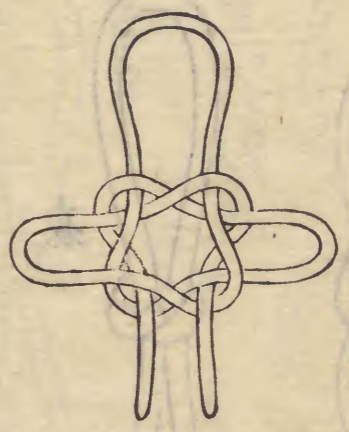


は糸引のこころをたてあふ

裏

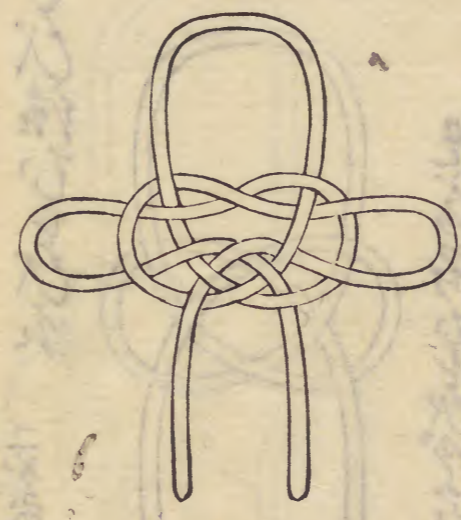


一 かけ糸むすび結法

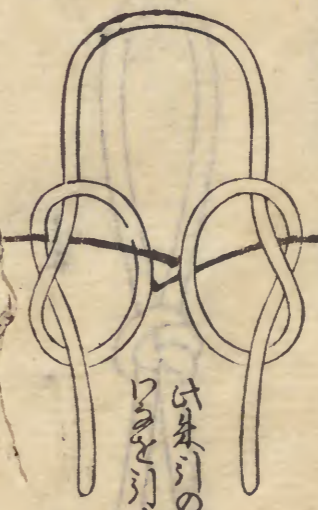


結び糸法

一 けきんむすび結法



結法先糸七下の糸のむすび



は方より引込

は糸引のおとくあ方へ
引き引込

は方より引込

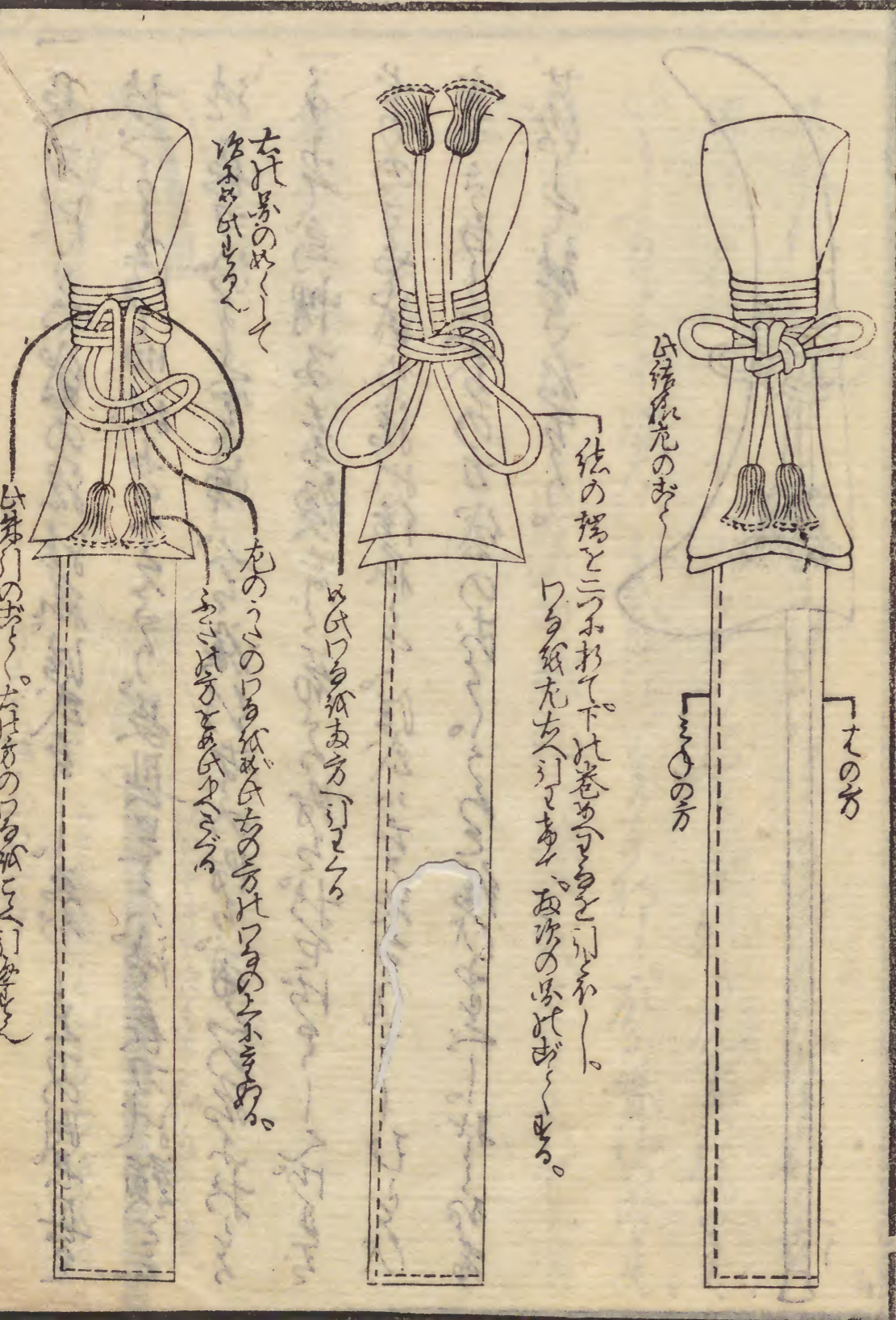


は方より引込

は糸引のおとくあ方へ
引き引込

右かきく結び以下のむすび糸法をすねに
なることどもむすび形むすびありあつた
ふおれも筆のほつてふ記之也
袋は緒むすび糸法

此。倍不持とるふを。袋不入を事する記方。袋の法結法式は
 なし。宿少て袋不納置まふ袋の種目は之を力刀はをを
 向く入色。袋中此めより。袋ををを袋へ折る布。結を袋より
 下二三巻。又を五巻手解く。法の端を二つ折て折め下は
 巻めふををみ。巻置し。法の結は女。あひり。置置し。又左方
 刀。袋中より納免。袋不入を解する。法。二つ折て。むとびふ
 巻置し。気法式より。ふを折る。むとびむとびむとびむとび
 ほをむとび。折る。むとびむとびむとびむとびむとびむとび。



右は袋の結
 法不納置る

右は袋の結

結の端を二つ折て下は巻置るを記す。

右は袋の結。右は袋の結を記す。

右は袋の結。右は袋の結を記す。

右は袋の結。右は袋の結を記す。

こまきちのよか片
腰物庄腰刀片并糸
庄云又サマアキ庄云
サマアキニハツバ無之
又チイサ刀庄云サヤ
マキ長サ八九寸サ
ナリ柄巻スサ
メスキ也又柄サヤ庄
唐木ニテモスルナ
小刀サヤサス也古
武士常ニサササカセ
今ノノワキサヤサカ
如之

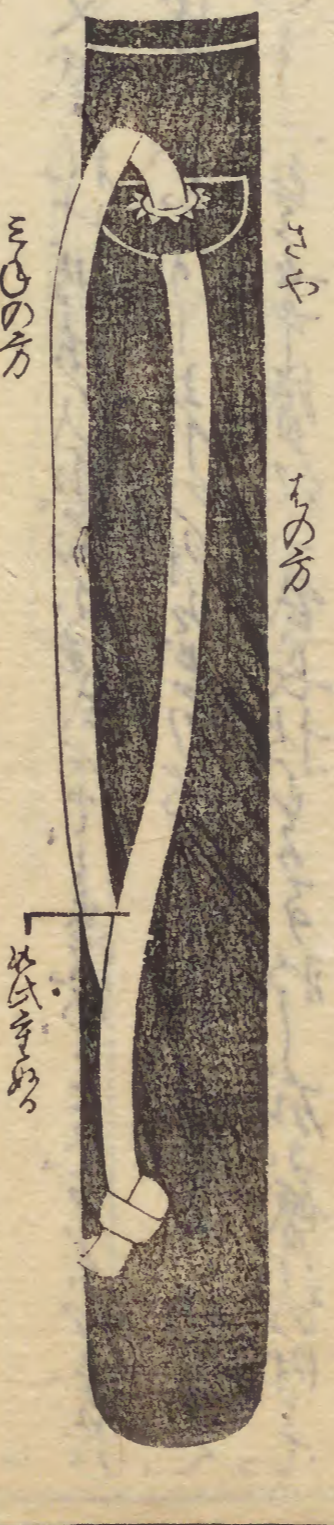
古ワキサヤハ懐銀
サヤロニカクニテサ
ニ隠銀トモニ也
懐中ニサヤサ小尻
小袖ニサワラマヤ
為也小尻ヲ丸ク
ニシル也ツカモ巻サ
サモナニ後世ニ至
テ尺モ長クナリ柄
マキツバヲモ入テ打
刀ノワキサヤ六七八寸
バカリナリ今ノアイ
クナト云ハ昔ノワ
キサヤナリ又サヤ
云モノサヤナリ柄
サヤ庄ニ錦ニサヤ
メヒタミニスルナ
并サヤサヤナリ
今ノ世ノワキサヤ
古ノワキサヤサヤ
長クニテ打刀作
リニスル也

のちハの大カ
ナリ之糸ハ大カ
キ六兼相ナ
大刀ヲ後後ハ
ハサヤナリ

一 刀の下緒結法 小袖此糸を巻くるおきく。まきの法も。ち刀はが緒をおきく。



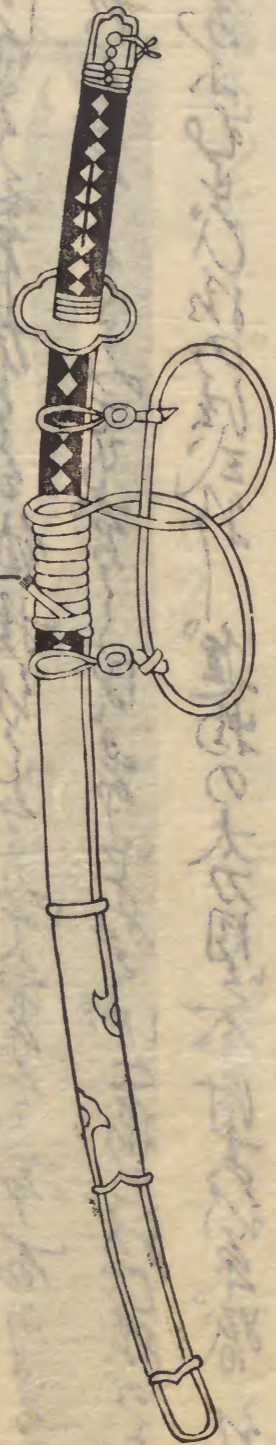
一 腰差れ下緒結法 刀をおきく。まき



一 太刀の号面此結法 号の号九ハ 結法先ノ通一ノ
結法ハ能ハ号の号ナリハ 結法先ノ通一ノ
結法ハ能ハ号の号ナリハ 結法先ノ通一ノ
結法ハ能ハ号の号ナリハ 結法先ノ通一ノ
結法ハ能ハ号の号ナリハ 結法先ノ通一ノ
結法ハ能ハ号の号ナリハ 結法先ノ通一ノ
結法ハ能ハ号の号ナリハ 結法先ノ通一ノ
結法ハ能ハ号の号ナリハ 結法先ノ通一ノ
結法ハ能ハ号の号ナリハ 結法先ノ通一ノ

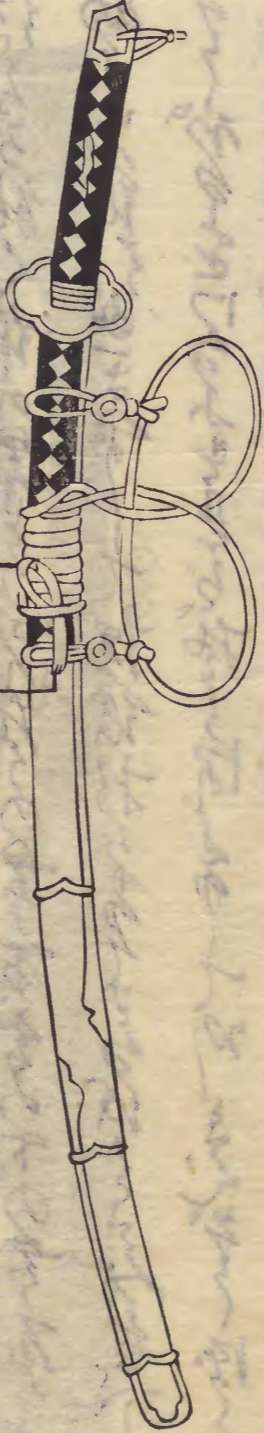
向葉前 葉前 葉前 葉前 葉前 葉前 葉前 葉前 葉前 葉前
結法ハ能ハ号の号ナリハ 結法先ノ通一ノ
結法ハ能ハ号の号ナリハ 結法先ノ通一ノ
結法ハ能ハ号の号ナリハ 結法先ノ通一ノ
結法ハ能ハ号の号ナリハ 結法先ノ通一ノ
結法ハ能ハ号の号ナリハ 結法先ノ通一ノ
結法ハ能ハ号の号ナリハ 結法先ノ通一ノ
結法ハ能ハ号の号ナリハ 結法先ノ通一ノ
結法ハ能ハ号の号ナリハ 結法先ノ通一ノ
結法ハ能ハ号の号ナリハ 結法先ノ通一ノ
結法ハ能ハ号の号ナリハ 結法先ノ通一ノ

青糸山雀片



青糸山雀片

布の糸をかんとう。雲のいながくあてあたる。雲の標紙おそくをいす。

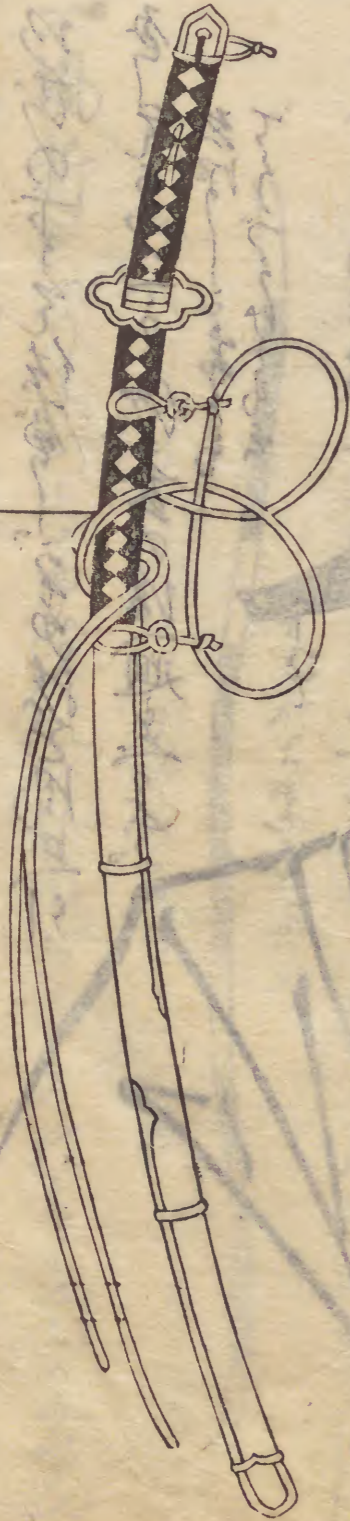
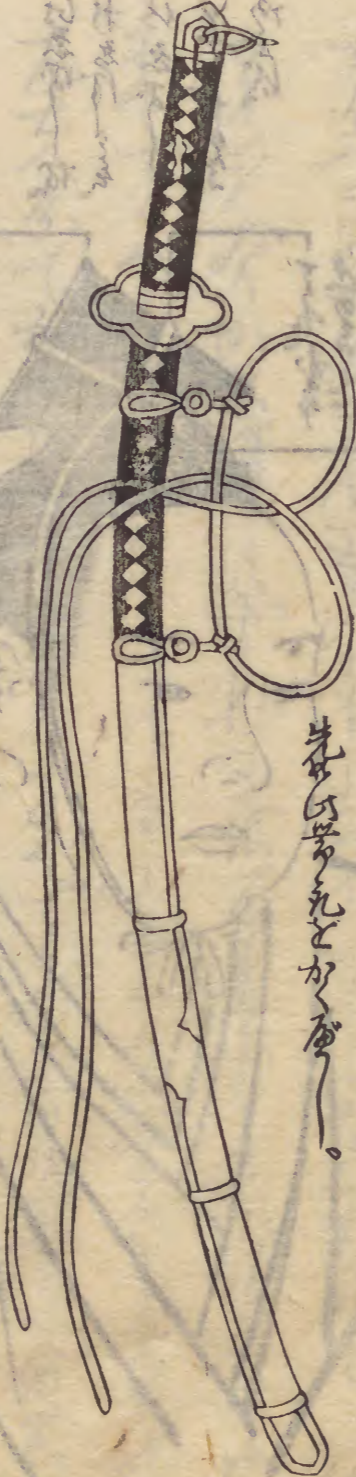


青糸山雀片

青糸山雀片

太支那とも号取巻紐の糸

青糸山雀片



太支那とも号取巻紐の糸

一 糸は、こまゆけに結ぶ。こまの糸を、結ぐ。丸く、糸を、引く。

糸は、こまゆけに結ぶ。こまの糸を、結ぐ。丸く、糸を、引く。

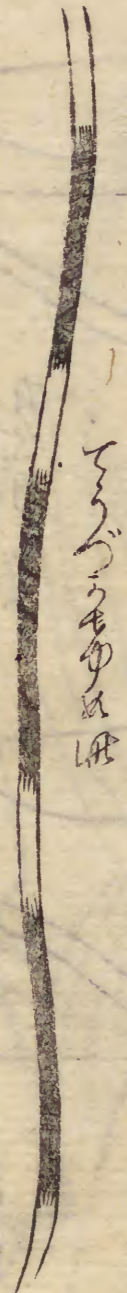
糸は、こまゆけに結ぶ。こまの糸を、結ぐ。丸く、糸を、引く。

糸は、こまゆけに結ぶ。こまの糸を、結ぐ。丸く、糸を、引く。



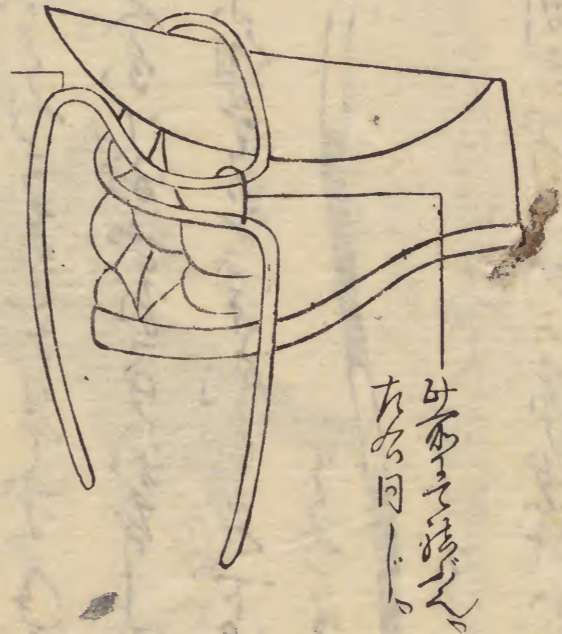
糸は、こまゆけに結ぶ。こまの糸を、結ぐ。丸く、糸を、引く。

古の糸は、こまゆけに結ぶ。こまの糸を、結ぐ。丸く、糸を、引く。

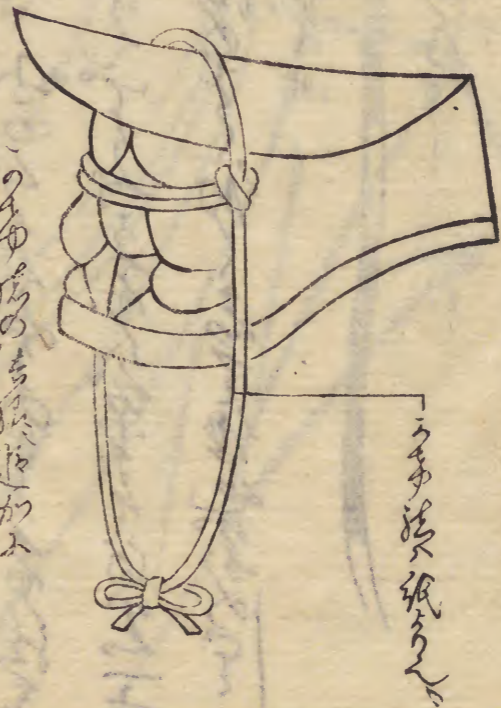


一 風折糸は、こまゆけに結ぶ。こまの糸を、結ぐ。丸く、糸を、引く。

丸太より一紐よりなる也。



丸太より一紐よりなる也

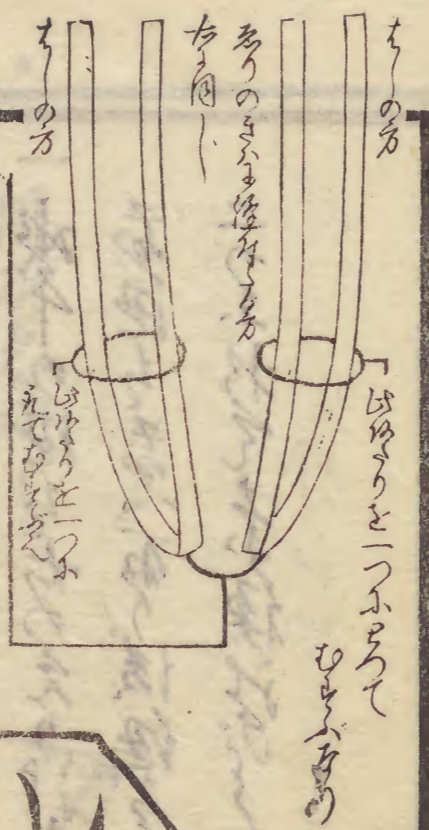


丸太より一紐よりなる也

丸太より一紐よりなる也

丸太より一紐よりなる也

一糸襷の紐結法二つふおてづらの紙柄で一結びをまて
ひらぶらへ。地のづらへ紐をまてするふなるあり。



丸太の紐結法を上の
法を二つふおて
一ひらびらへ又一ひらびらへ
あ方よりの物なり。

一 裏方此等々も、紐を素後付にせしむる事也。

一 紐を素後の紐に結ぶ法は、素後付不同ト。

一 長絹の紐に紐を、単に結ぶ法は、素後付不同ト。

左右、紐ヲ長絹ノフトコロへ引入レ、長絹ノフトコロ内ニテ、左右ノ紐ヲトリ
違ヘテ、首ノウシロヲ引廻シ、前ニトリ、長絹ノ左右ノ脇ヨリ引出シ、左右
ヲ取合テ、モロロナニムスブナリ。

一 水平の紐を、右のえりけしき、前後と後通と打交す、はらとて
前後を、あへ取り、後紐を、是れ後通とて、あへ取り、是こと
二つ、おそ、素後付に、せしむる事也。

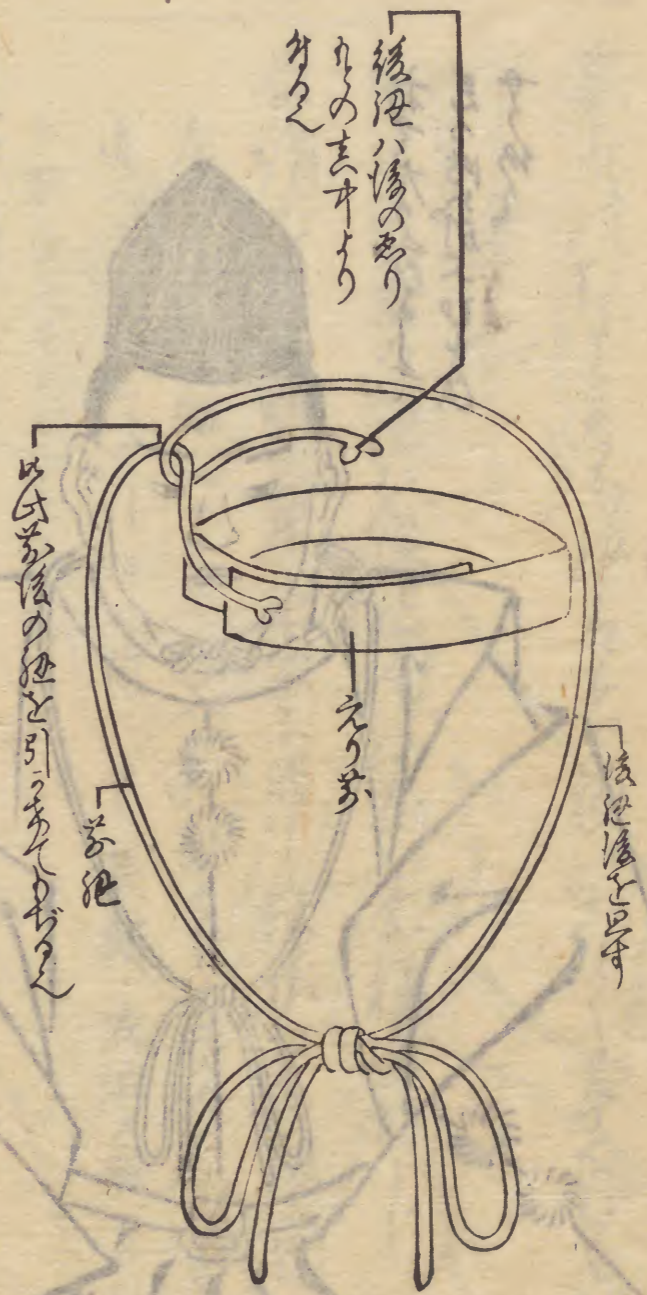
風折忌降

おそ、たる、びり、て
是、る、は、別、よ、む、と、び
せ、う、ゆ、り



キントダシ

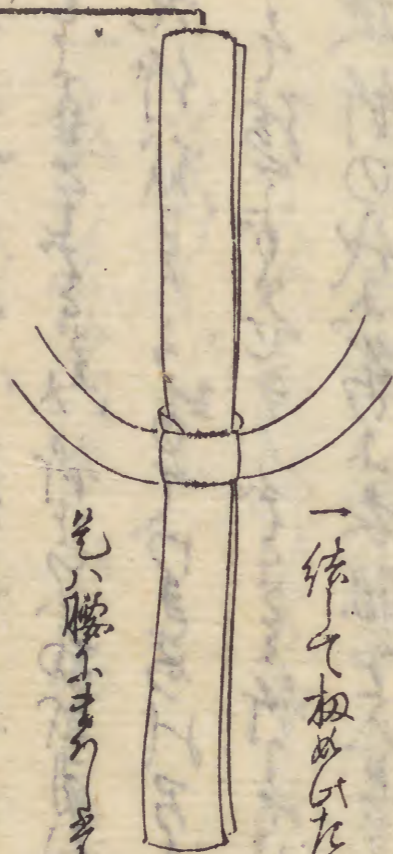
後腰ハ後ノあり
其ノまきより
外ニ



此ハ前後ノ紐と引合しあはるん

一重密の時袴の後腰の紐を引合し後腰の紐を引合し
さく一法して又一法する世に於てはたしてむきびはと巻く
結する不法して結めりたりとさるゆゑにさきにてお腰の紐と

袴とのり引合し一法もあはるん其結びは巻く
置巻く。



一結やねぬひたぐむきびとさる也

是ハ腰まきりきりお丸太目

是下(さげ)つよき(つよ)の結めと
袴とのり引合しより
下(さげ)きび(きび)も(も)き(き)結め
を(を)さ(さ)る(る)。



巻りまきりお丸太目

お結めの上は巻く巻く

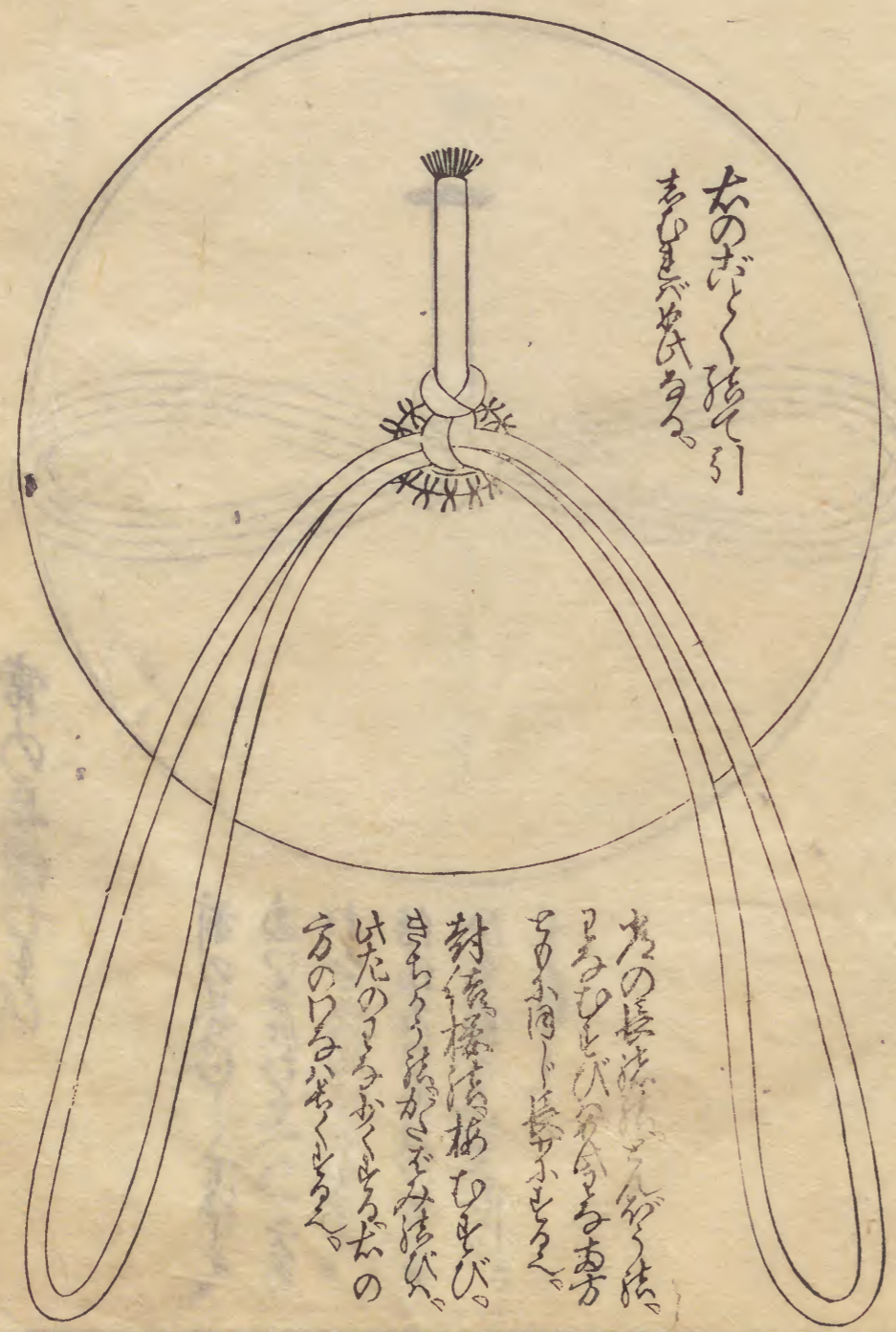
お下り給へば
何れ御座りませ
ゆゑに又此の
るに所とてい
るは、貞丈
雜記にあり給へ

一 袴の緒むしびぬ法式形。古き袴といふのは、ハ
なりりしものあり。古き衣服或は袋ふへ、袋の者ふたせし
袴の袋とてゆへ、袋とていふ。袋の口ふたが、
今の世も女も、衣服と今袋のふた。古き法式を用ふる
と、古き法式とていふ。ゆへに、古き法式といふは、
九折、或は二折のものを、口もあけ、乃ち衣服とていふ。先づ緒
とて結せむ。せきり、たて、ゆへに、衣服、指し、古き法式、
使竹の代ふ。袋ふ衣服を入る。ゆへに、古き法式といふ
なり。京都將軍の所代、ゆへに、袋ふ入て、おせ、古き法式
ゆへに、袋とていふ。ゆへに、古き法式といふ。ゆへに、古き法式
ゆへに、袋とていふ。ゆへに、古き法式といふ。ゆへに、古き法式

むしびぬ

一 衣服の袋又は合符籠を今ゆみ、茶目んの袋
なりの古緒の結、ゆへに、古き法式といふ。ゆへに、古き法式
ゆへに、古き法式といふ。ゆへに、古き法式といふ。ゆへに、古き法式
ゆへに、古き法式といふ。ゆへに、古き法式といふ。ゆへに、古き法式
ゆへに、古き法式といふ。ゆへに、古き法式といふ。ゆへに、古き法式
ゆへに、古き法式といふ。ゆへに、古き法式といふ。ゆへに、古き法式

衣服の袋とて
いふは、袋とてい



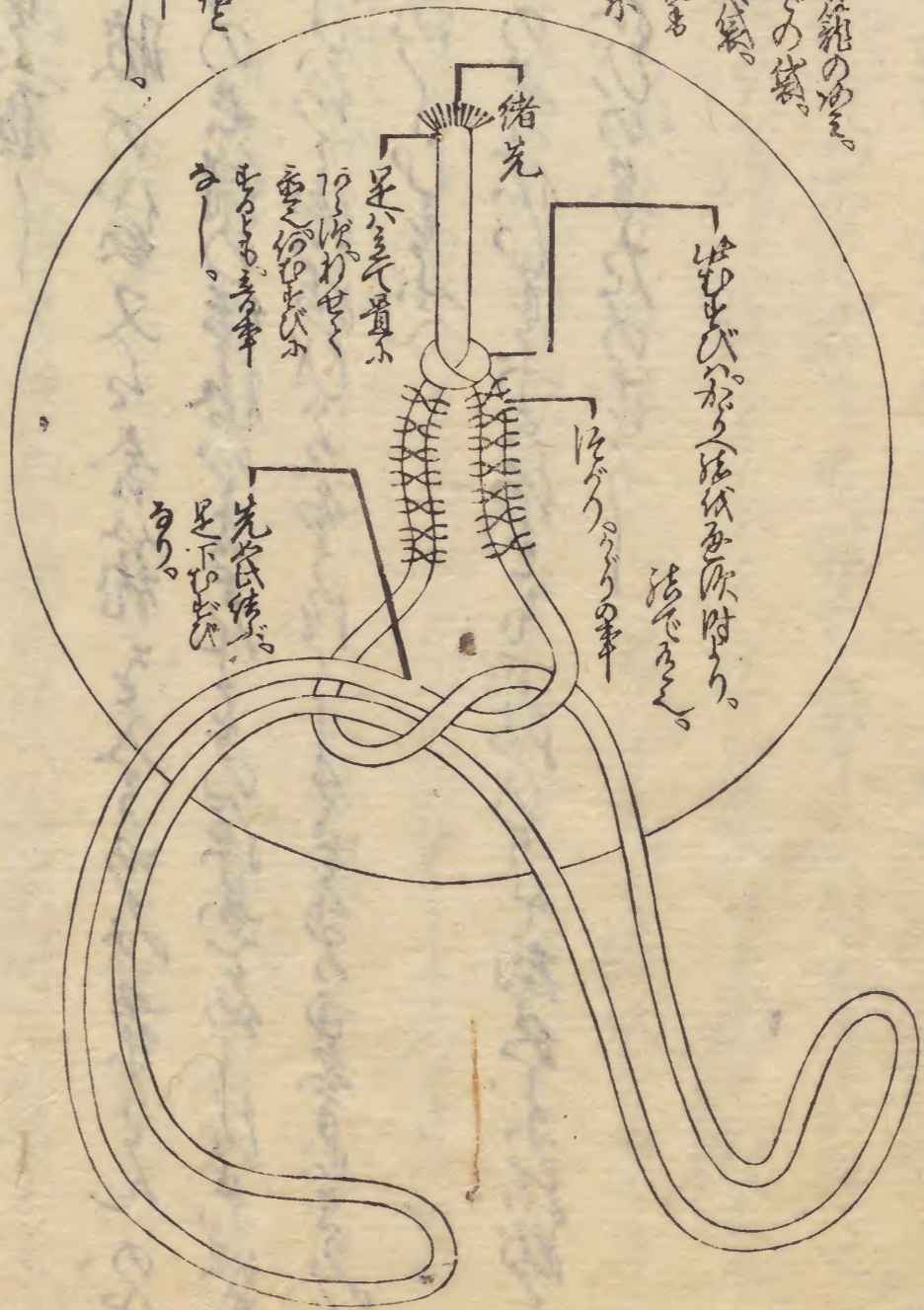
大のぶくち引
まじりあはさる

一方の長二尺身之

此の長法は、
目もむしびも
さしあはさる
封鎖極法、
きつらう法、
けたのこま
方の口も

何むしびもさるとも、
下法を置くて、
おまふむしび

長緒、
香炉、
沈香、
袋の袋、
ゆき、
袋のみ、
まじり、
皆緒の、
むしび、
同じ、
何れ、
定まる

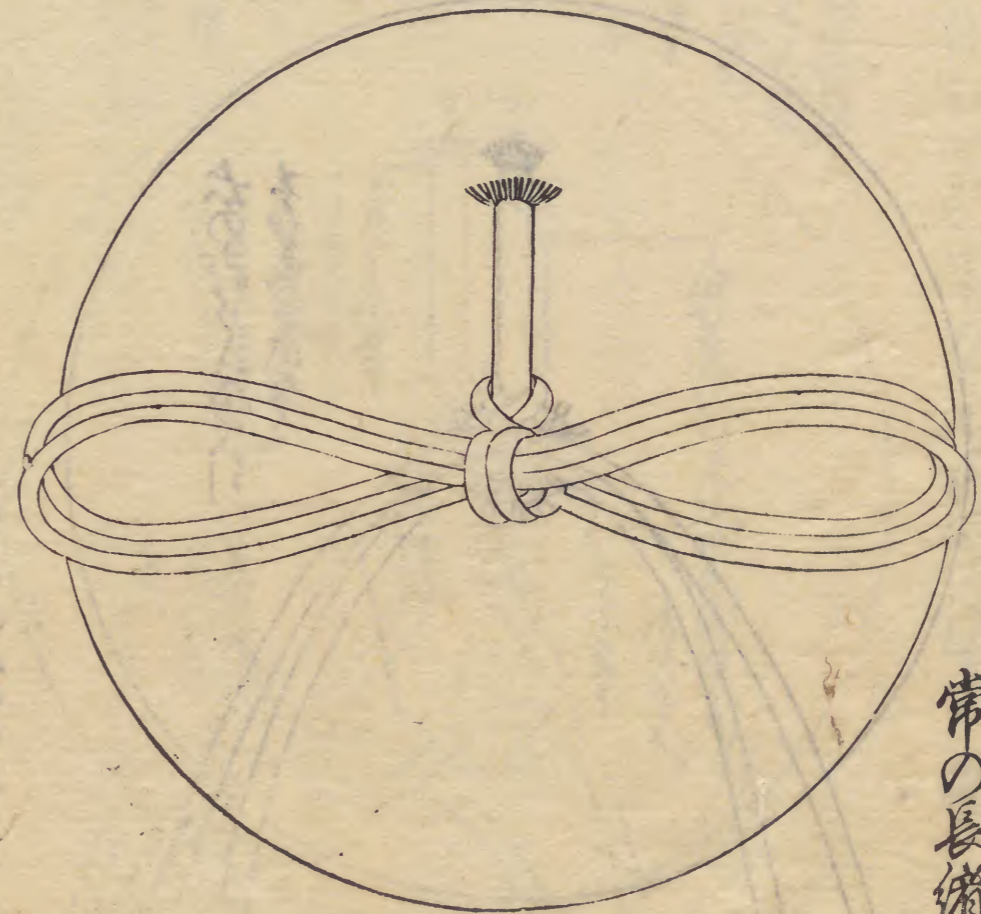


緒先

足、
ゆき、
まじり、
さし

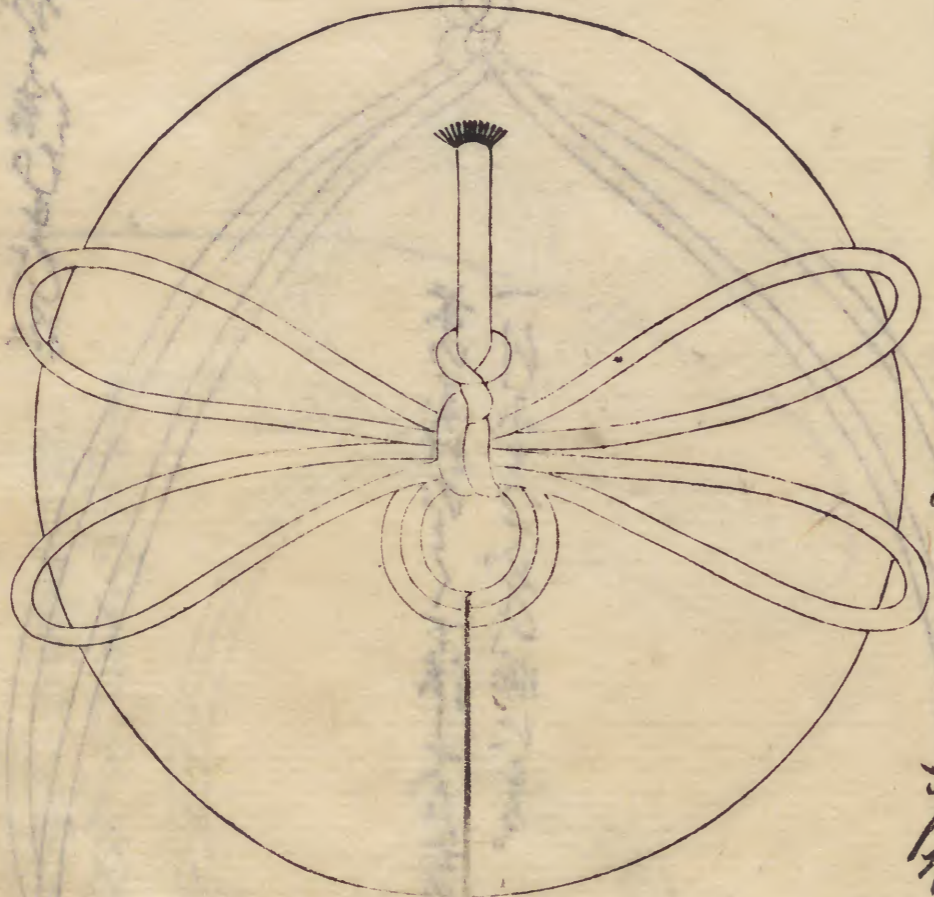
先、
足、
さし

何むしびもさるとも、
下法を置くて、
おまふむしび



常の長緒むすび

前の糸はごく下法に
ありまむすびは二方の
わきこらばふさふさ
結後の糸は結まか
ひまきまき
二糸



三糸三

糸をそろて引あげ
のこすはほん

とんがう結むまびね



糸のまじりおとく下法してたあの日も
一ひふまろくおの結にまら。

たのびと輪をしてねあひと糸のめどせとて

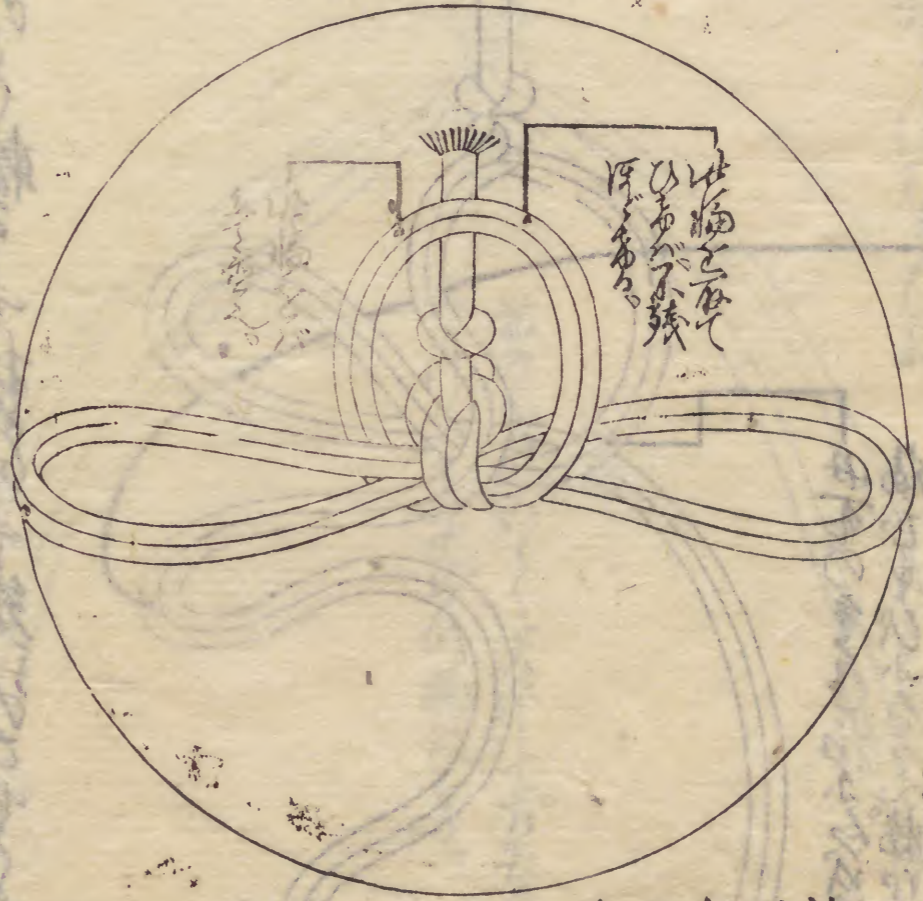
形紙なるは座。



世のまじりおとく下法してたあの日も
一ひふまろくおの結にまら。

世のまじりおとく下法してたあの日も

下結糸の結び



世通をなす
ひもが不残
ほもあつ

輪むしび

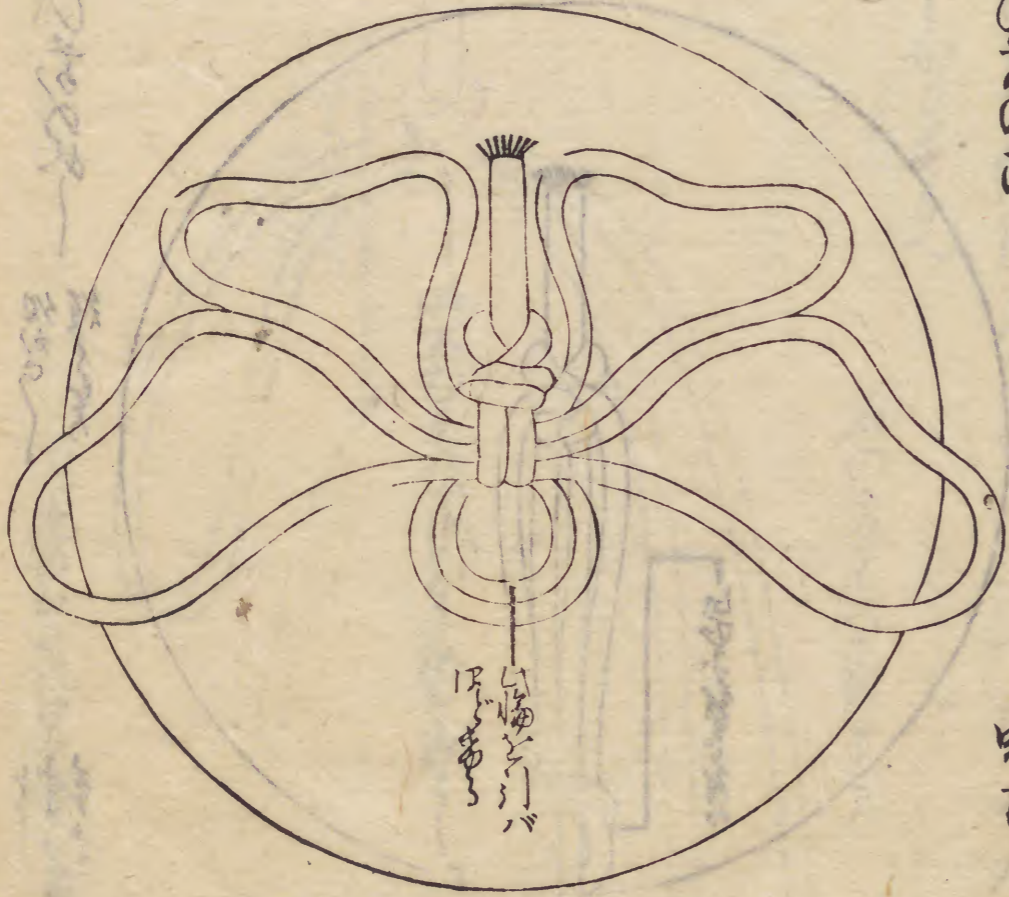
結ひ申うゑんがう結ひの
不地以思強んがう
むしびの向トむしび
きこのかう上下の遠ひ
才之筆本を絶次

世通結ひと一なるが
むしびも云



是に結する
結する

下結ひ糸の結び



世通をなす
ひもが不残
ほもあつ

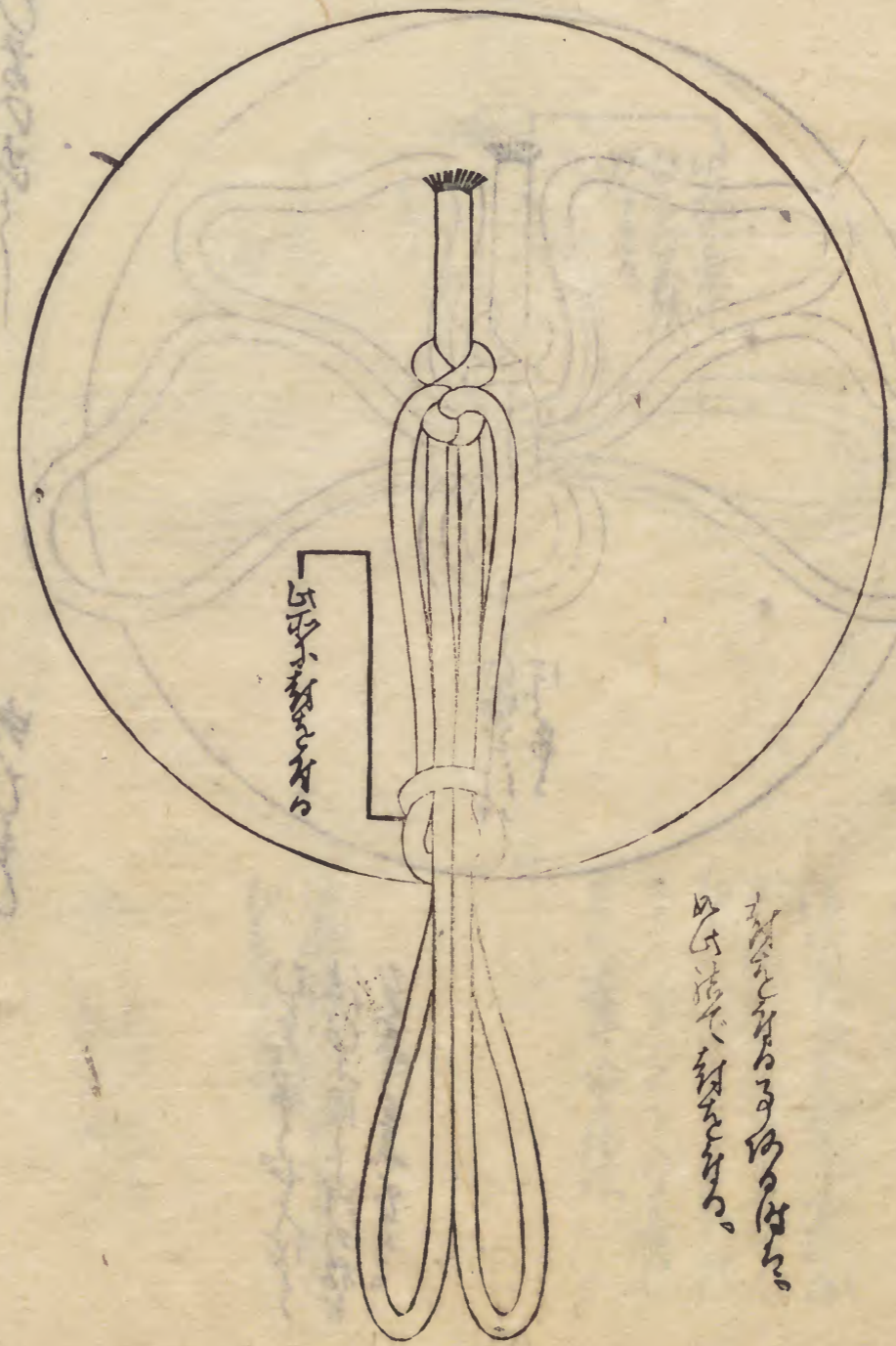
蝶むしび

むしび申うゑんがう
結ひ不同し何の形を
なす乎手なす乎

下法びそのめ
他から
短くする

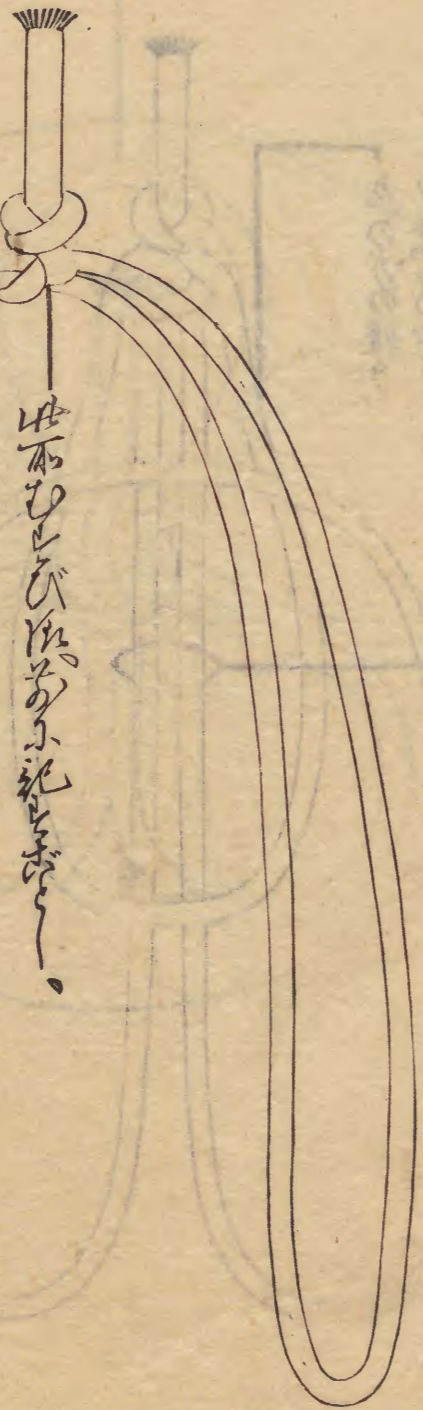
封むまび

封むまびの
糸は左の方から
右の方へ通す。



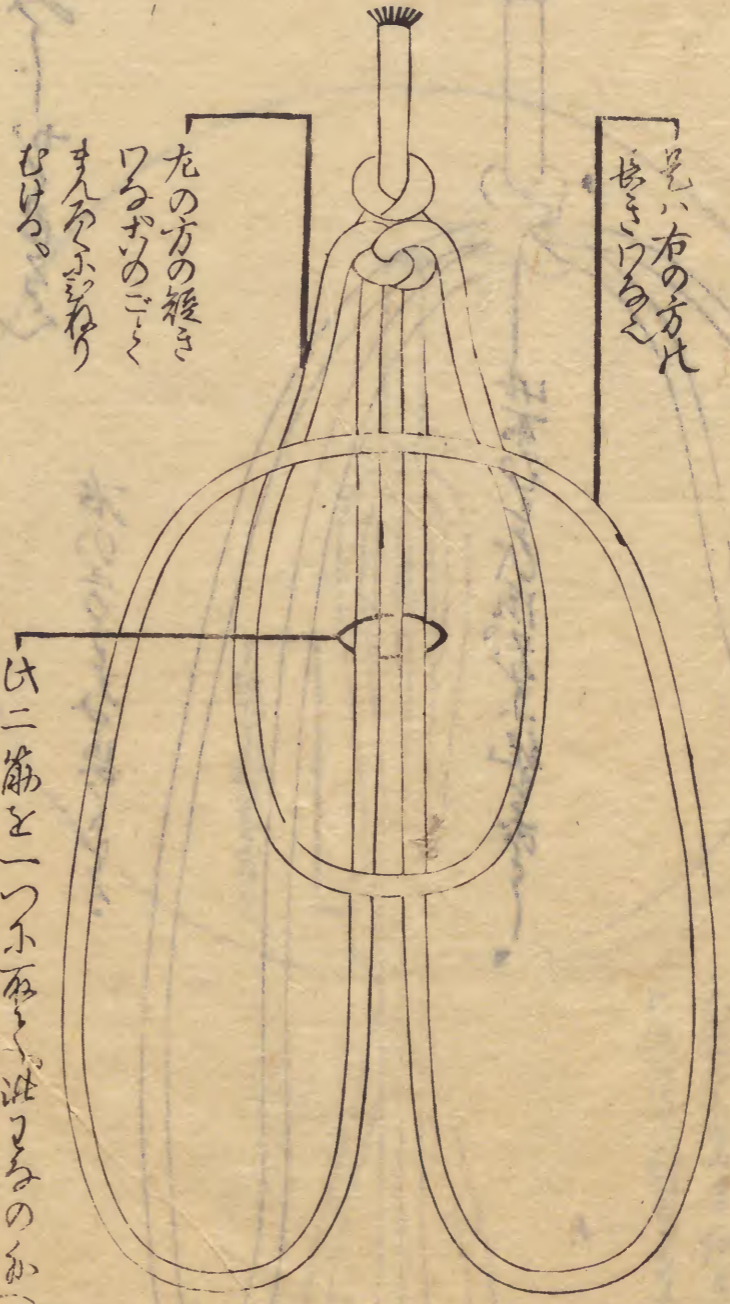
封むまび結法。先糸のむく下法して丸の方をむくま
みどからむく

右の方より長くする



丸の方をむくま
短くする

右にどく下法にて、板はして、朱引のどく、印記出次
庵



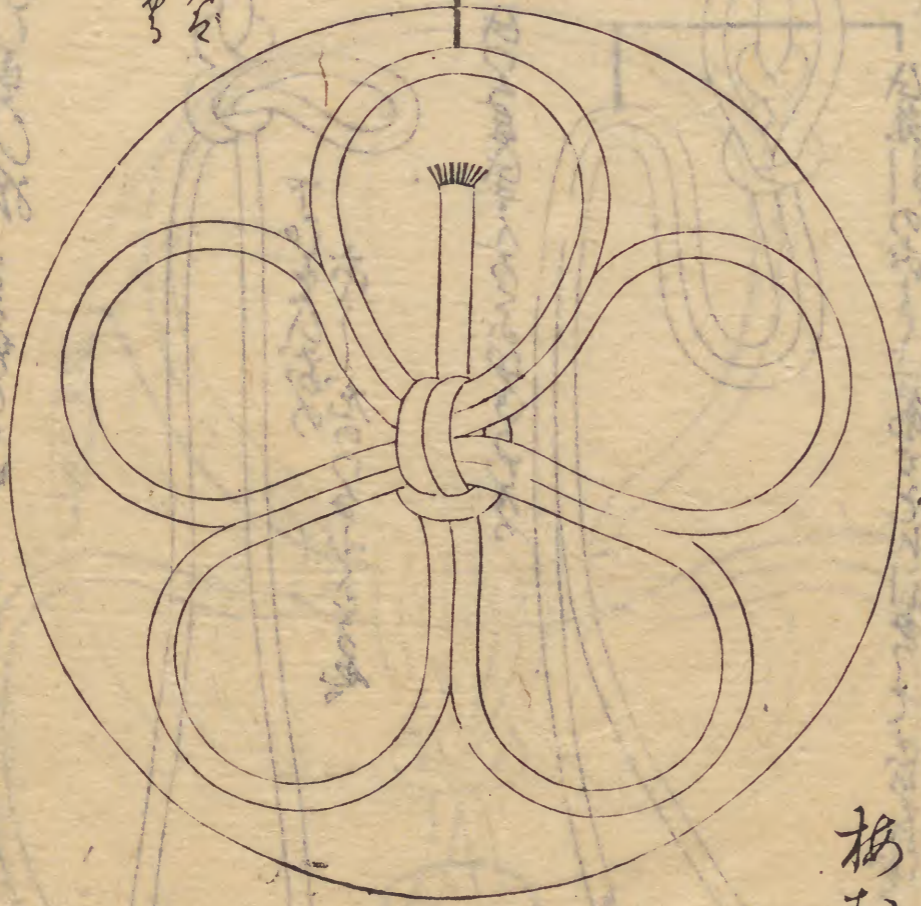
は二筋と一つふねを、注りまのふ、引出す。引付も、あの方、引。

下むきびあ、のどく

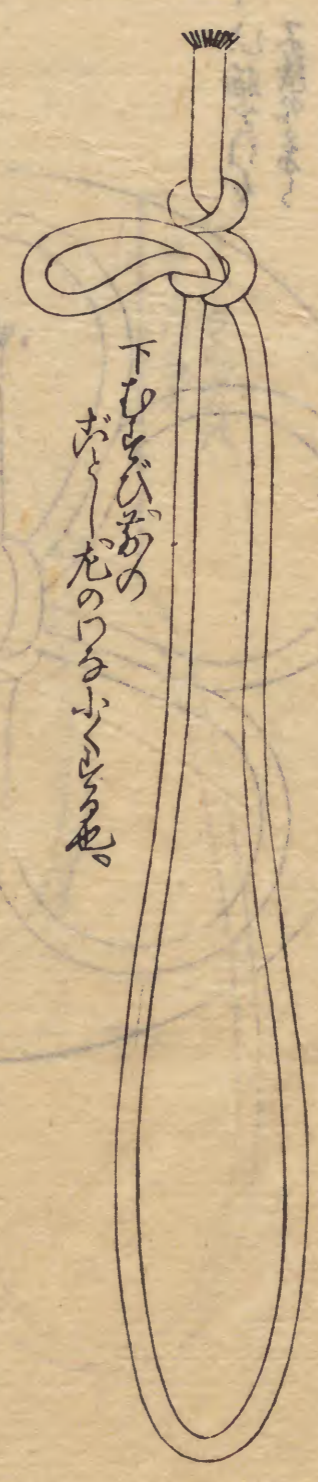
他か、く、短く、出る

梅むき

は、插と、引を、不、残、不、あ、り

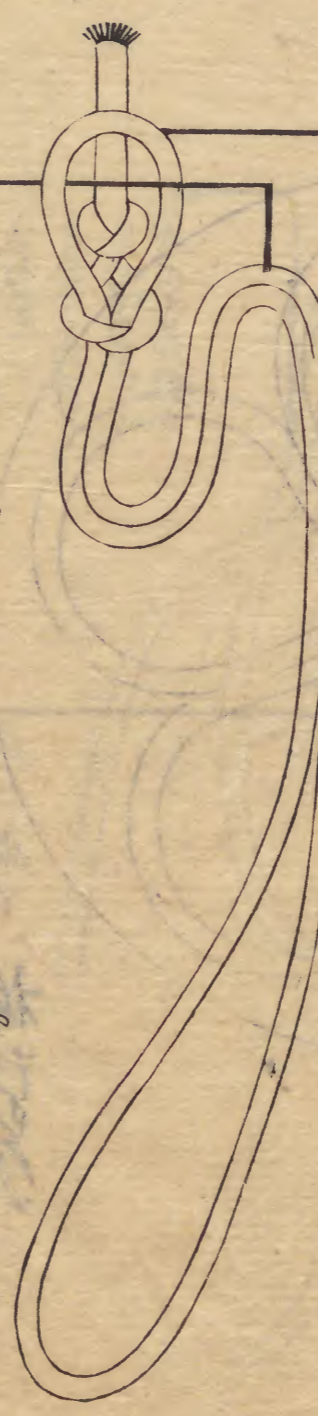


梅結むしびね 兼結びの時とれはさる



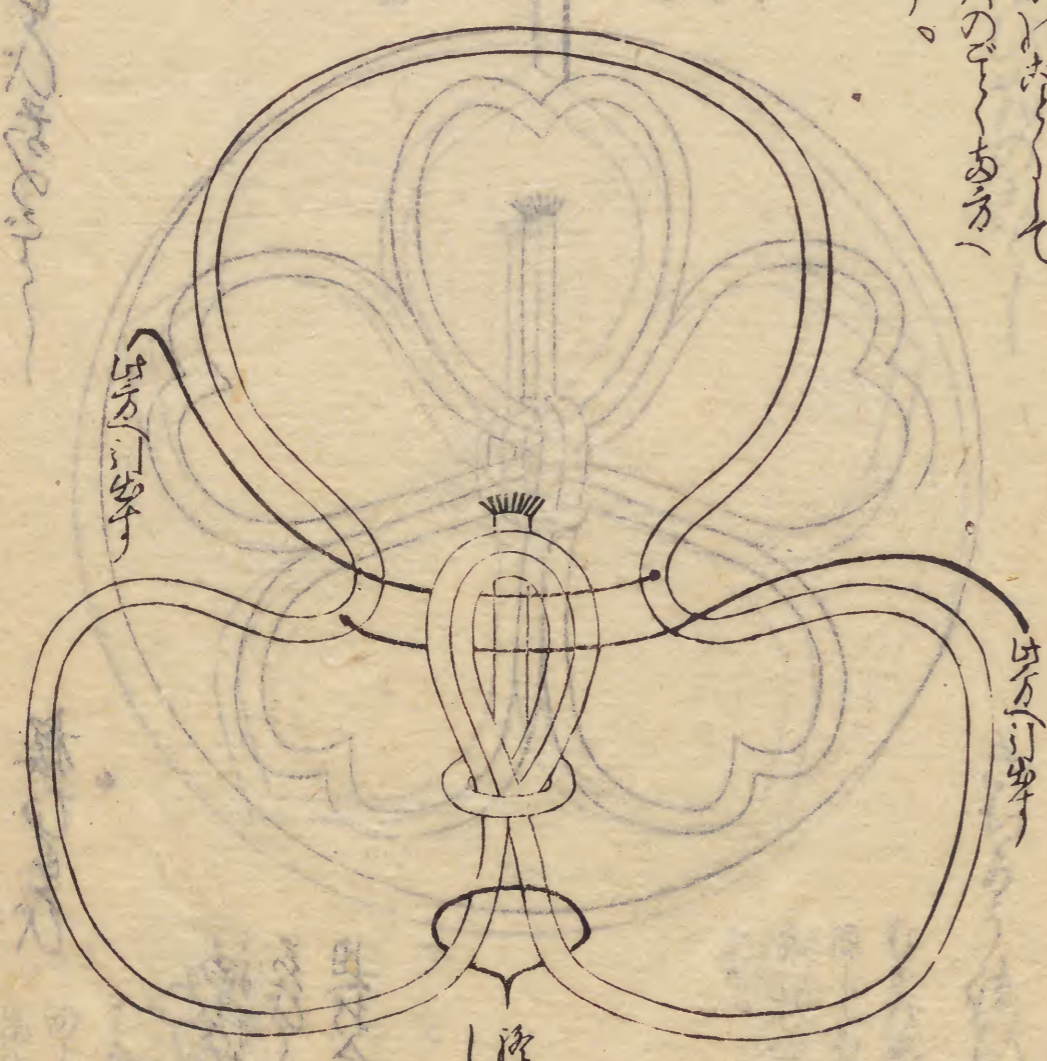
下むしびねの
おとつるふくさる也。

はつらむしびねのふくさる



はつらむしびねのふくさる二筋とせに引きてふくさるは乃
是れさるになる兼むしびねの時とれはさるなり

右のふくさるは
はつらむしびねのふくさる
なり。

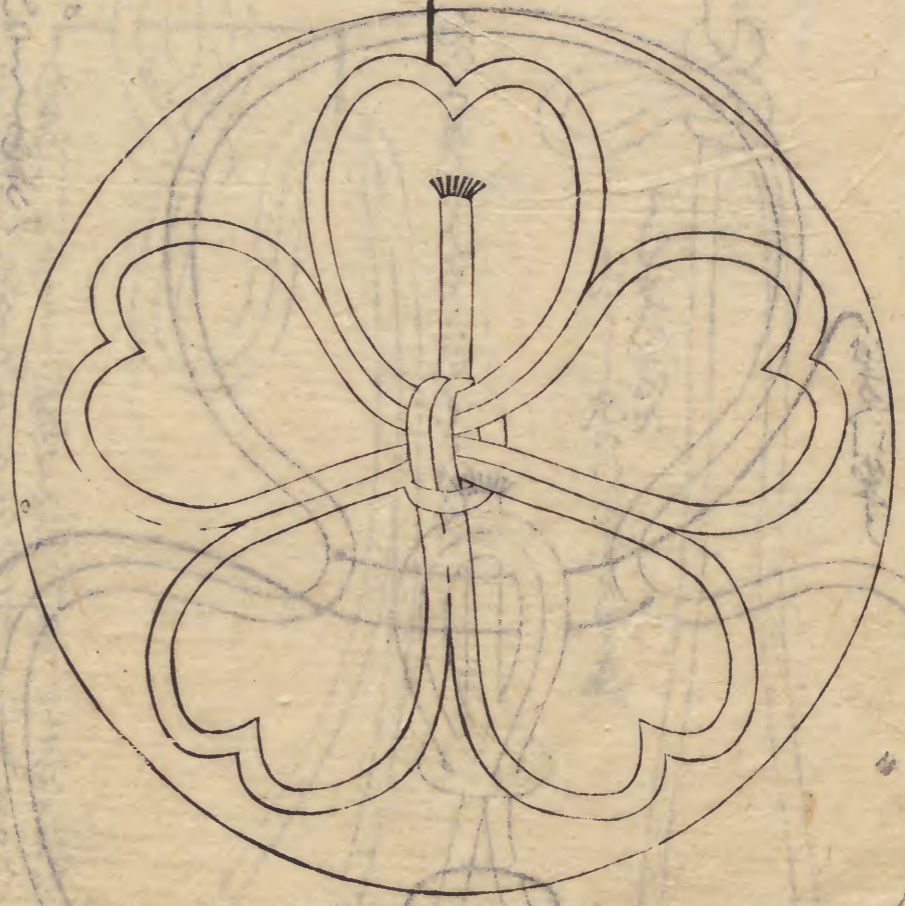


はつらむしびね

はつらむしびね

はつらむしびね

下結びあのど



桜むぎ

法依梅結不目ト
あびの先紙少紙
因紙入まのまひ

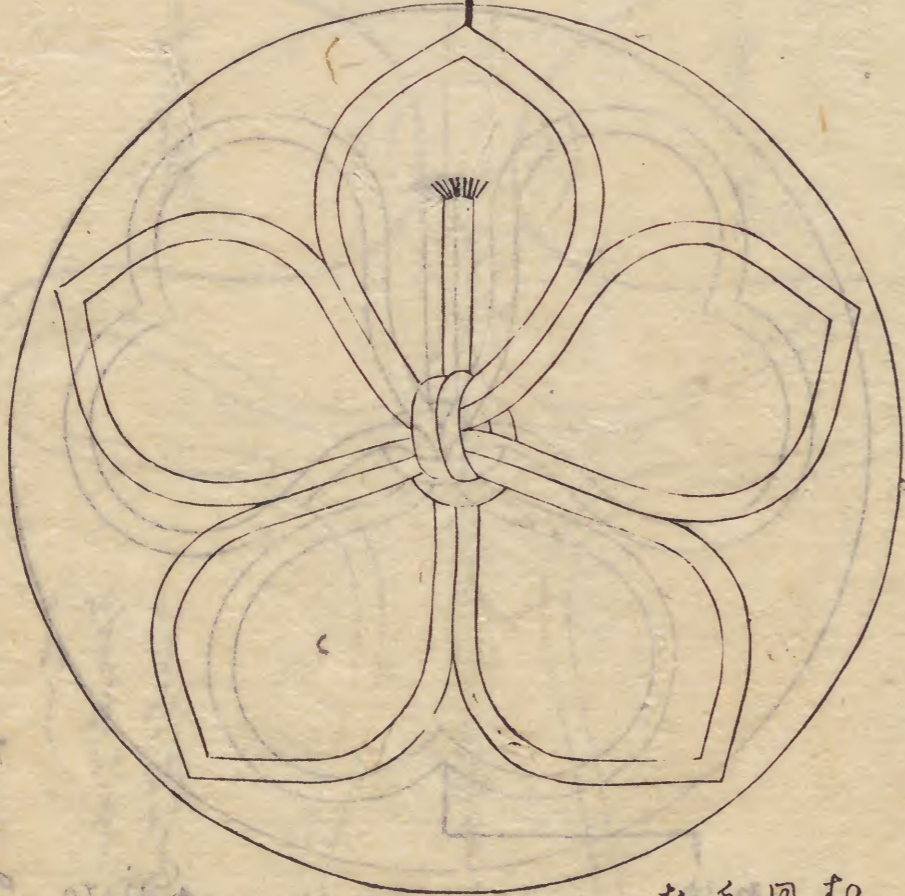
は梅と
引か
作

下結びあのど

きちのう結び

むぎやう、梅結不
目トあびの先紙
亦、折中紙等の遠
なり。

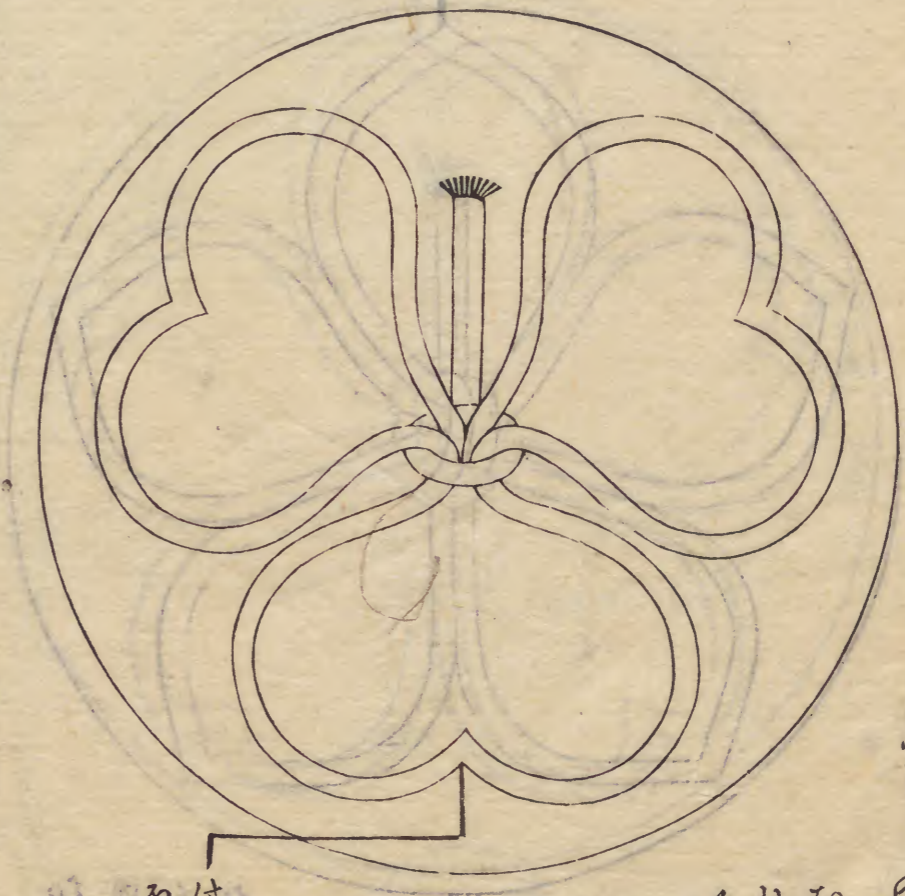
は梅と
引か
作



まら紙め紙あを
かゝる法とむぎ
梅結不目ト

下結初のお

かきみ結



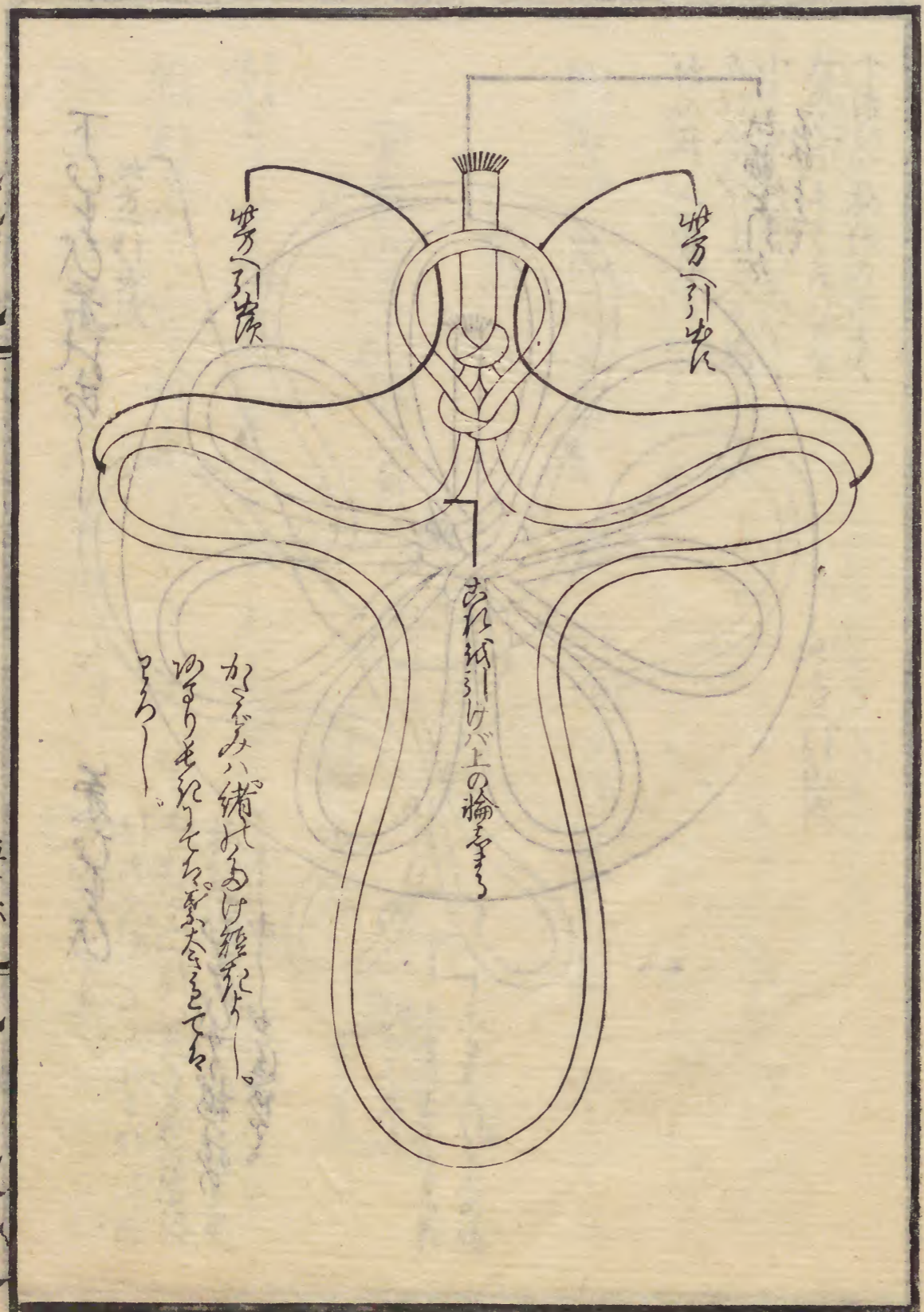
むとびね結は
ゆるり他方遠より
活の界のお

葉の先瓜内の方
お入

は編といひた
りける

下結初のお

かきみ結



葉引中

葉引中

おれ紙引け上の輪

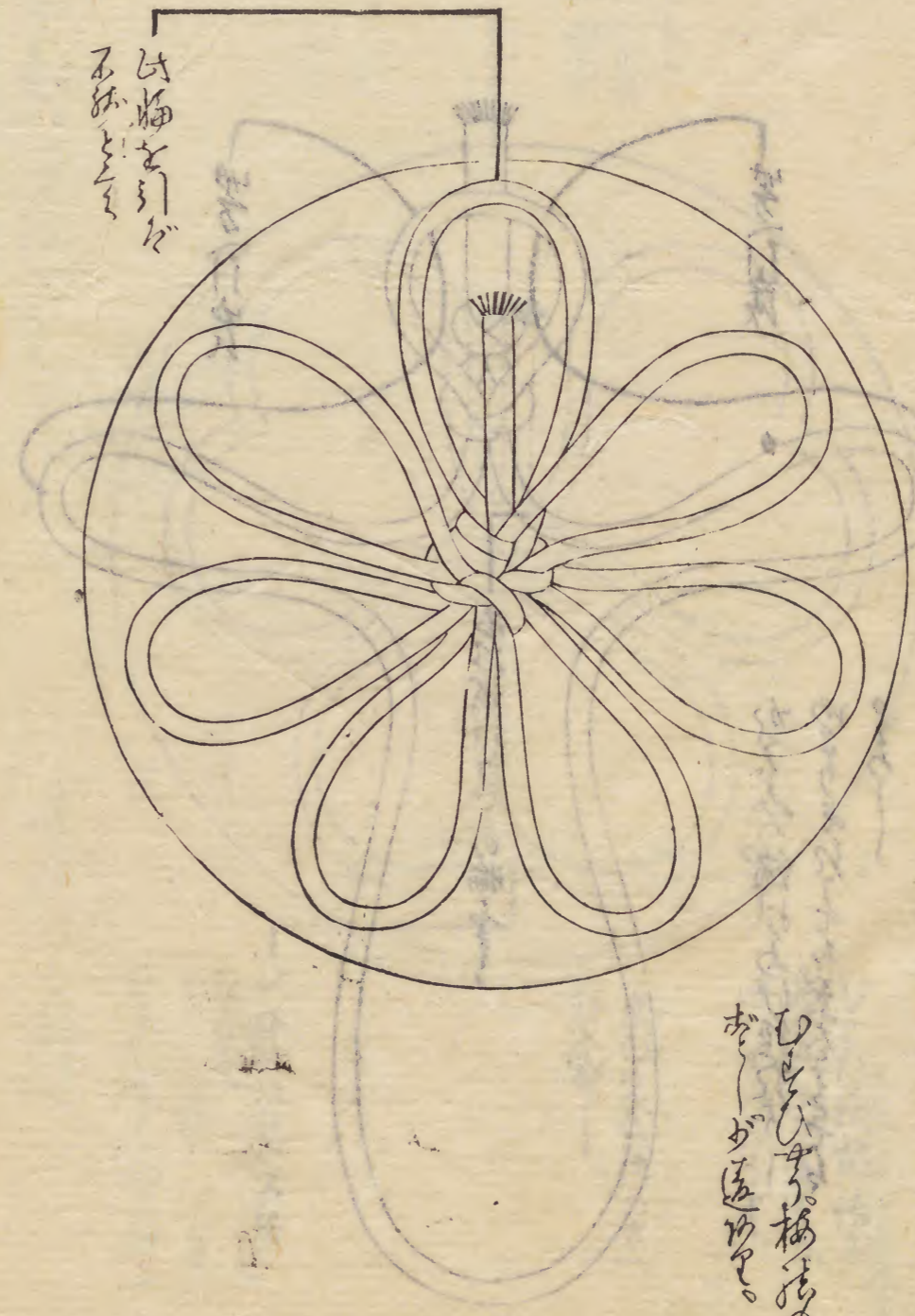
かきみハ緒は
ゆるり他方遠より
活の界のお

下ひびき糸此方

兼ひびき

ひびき糸。梅結の
おしり。お返し也。

は梅を引か
ず糸とと



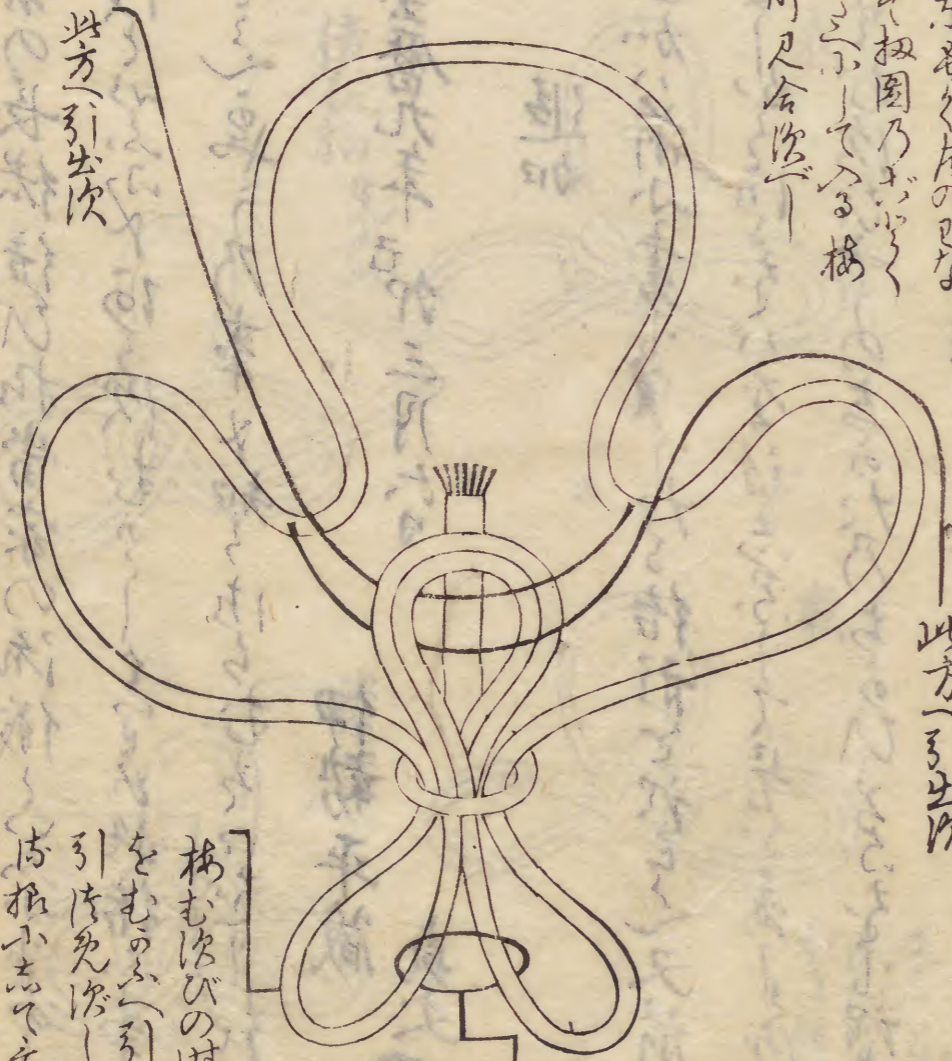
下結ひ梅結のおとく
右のひちをくく右のひちな
小ととく梅結乃おとく
ひちをくくしてひち梅
結の所足合也

此方引出次

「おしりを上の結
志まき。おしりは花
びら不来る

梅むひびのつひ乃二つのひちな
をむのふ。引つたる兼むひびの
引片免誘して此ひち二つあ
は梅不志り也

此方引出次



右袋の長緒結び指當家の流儀といふもあはれ又他家に流儀といふも何れかむのしとて此結ふ事世に人の手次とて之より事と知らむを口をいへば事なるべし

宝曆九年己卯三月六日

伊勢平藏

貞丈

弔

追加

一此追加前不書しむる結形を記さ之又前不記たる事し妻からけむをば左社志家して是を妻より次又一つ結うとなれむ此むむのまのた乃ちのひらふをも記さ前ふも記此追加しむる事むをば方引存せ又ふ

一真のえんがうむむび は羊のせき口小付結形

表

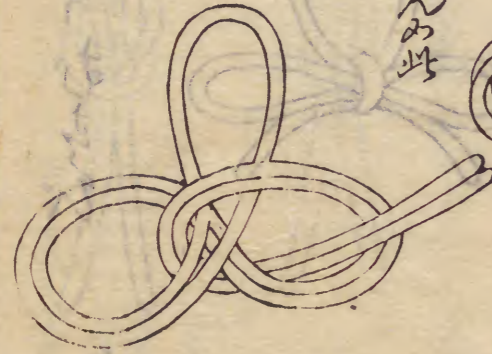


裏



又羊のせき口小付は此の二名をいふむむ結なる

結び指先み此



次小み此

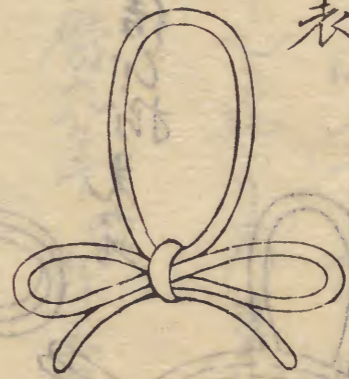


此糸引の如く通し東より引通しぬる

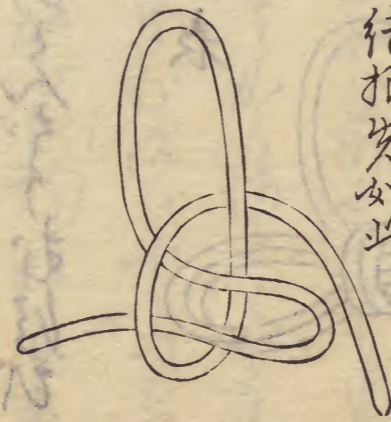
此糸引の方より裏の圓のかきみぬる

一草のせんぼうむきび

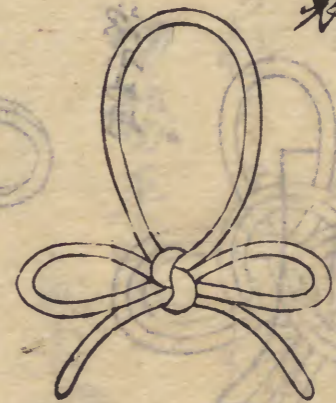
表



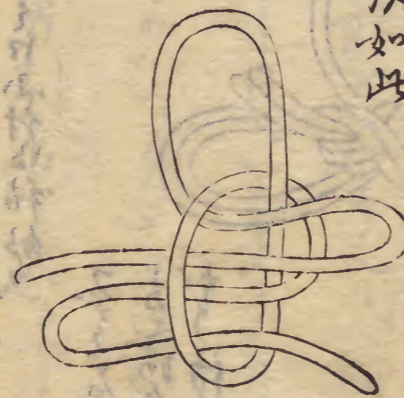
結振先如此



裏



次如此



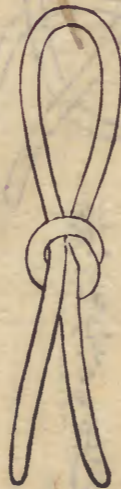
此結する草不つく。

一片^{カタ}むきび 一名おれむきび

右のむきび表



同裏

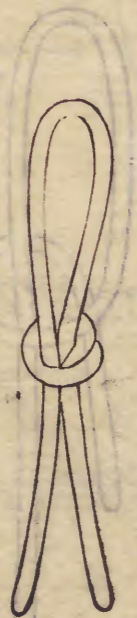


むきび振如此

左のむきび表



同裏



むきび振如此

一 諸むすび

是ハ昔小記一なる男むすび之智事なり。然れども結びやうの志す少のなる故に。

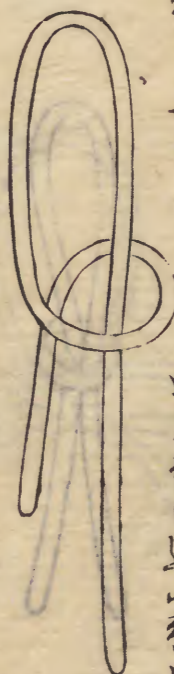
表裏同



結びやう

此糸引の通ふ引通

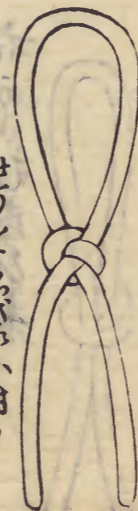
水干むすびの袖下ふすむ糸を用ふ



一 名のとび

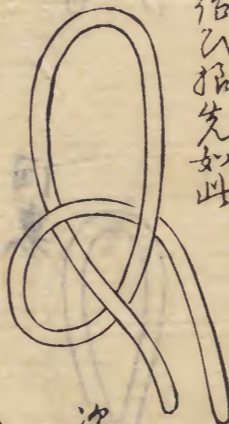
是ハ舊の志すふ付る結びむすびやうの志すたるおれども結びる形ハ法むむむ同ト振る入けふも。さうで又むすび違ふ。

表裏同

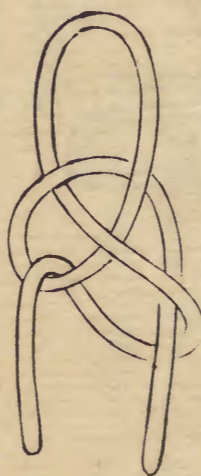


此方と志袋小付

結び指先如此



此糸引の通ふ引通

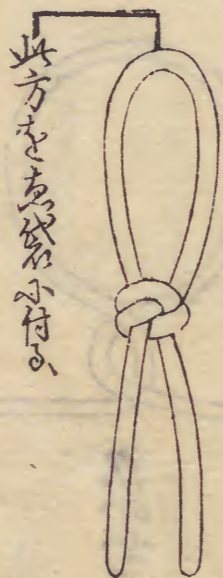


名のとび一名がうすのら又その目とも云

一 うすのら

是ハ舊の志袋小付る結び。一方小ハる乃。さう一方小ハる。さうだうを付る。

表



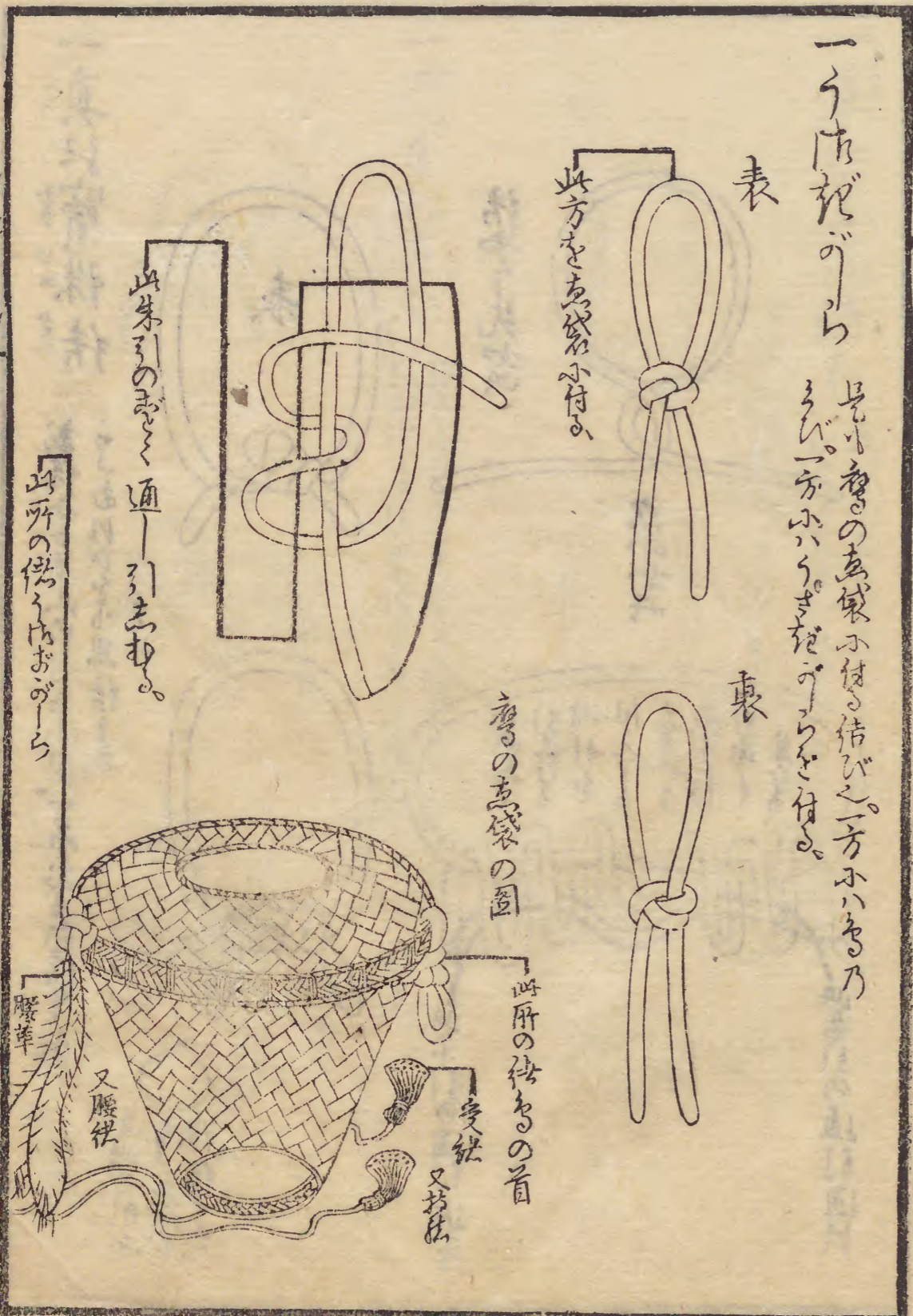
此方と志袋小付

裏



志袋の図

此所の結びの首

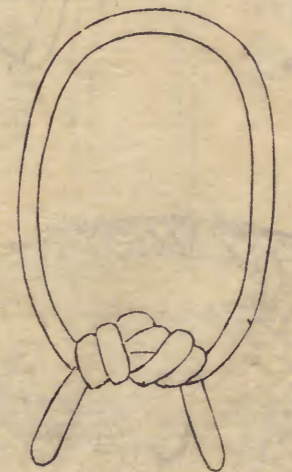


此糸引の通ふ引通

此所の結びの首

一 眞珠寶珠結

或説ふは美人のおち不用一名おちひ結せ云
うらむびをも思結と云

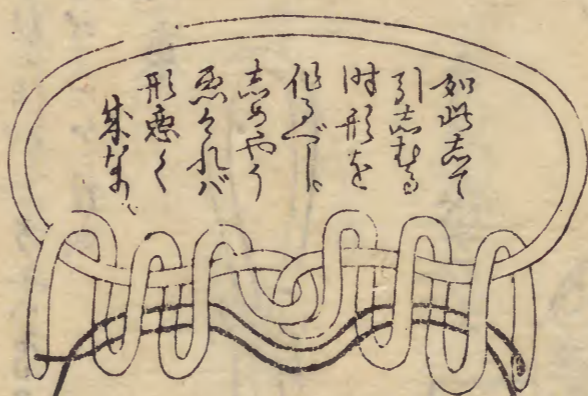


此の形は
おちひ
結と云

結り先如此

次如此

如此を
引志む
時形を
他ふ
志ちや
魚を其
形意く
珠結

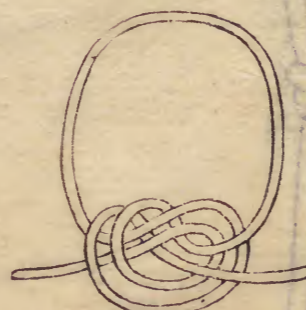
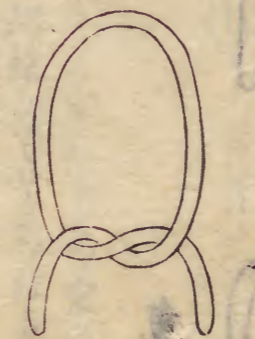
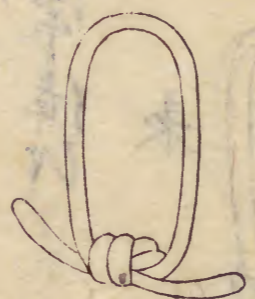


此糸引の通引通は

此糸引の通引通は

一 草の宝珠結

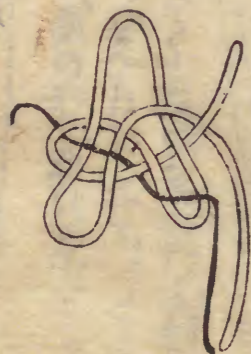
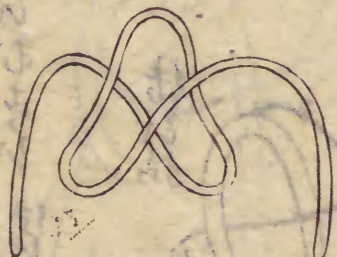
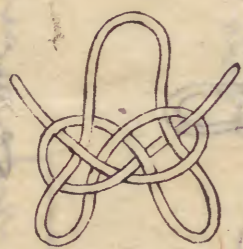
或説ふは平人のむち不用此結ひはおち記なる
むら結ひ結ひおち記なるやんやん



此糸引
志む

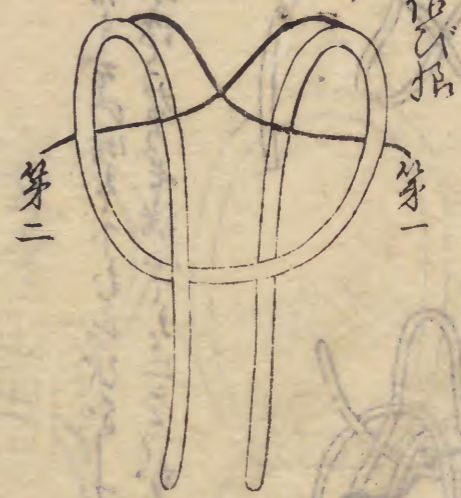
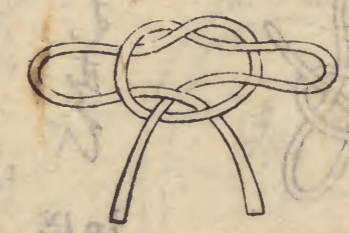
一 四つ手むらび

袋の古供ふも用くその時を下むらびを
お四手結ひおちなる古供ふも二重か



此糸引の通引通は

一のけむきび 一名かけおびむきび 前ふ記ががおひ 結びやそふちる



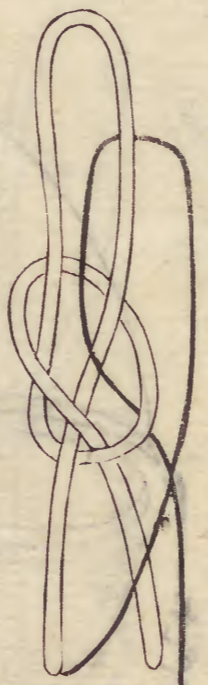
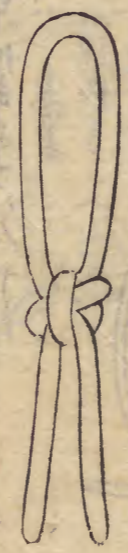
此糸引のどろく 引通す

一麻苧結び

表

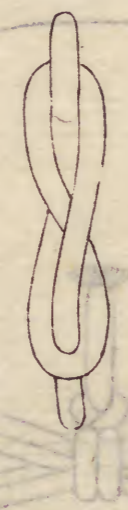


裏

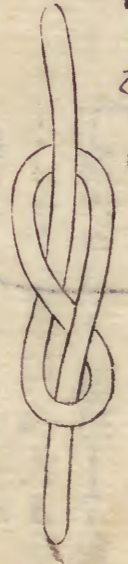


此糸引の如く引通して志むる 志むる時糸筋遠くを右に回す

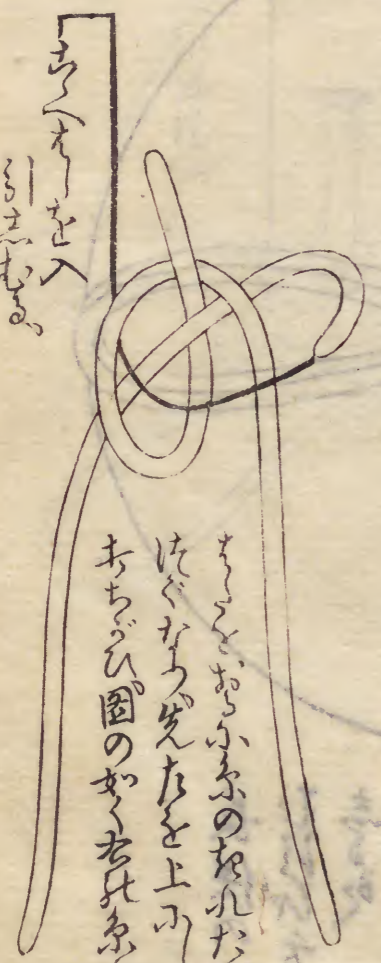
一規くやぢむきび 規くやぢなどの糸とちる 此結びてやぢ付る



結び指此

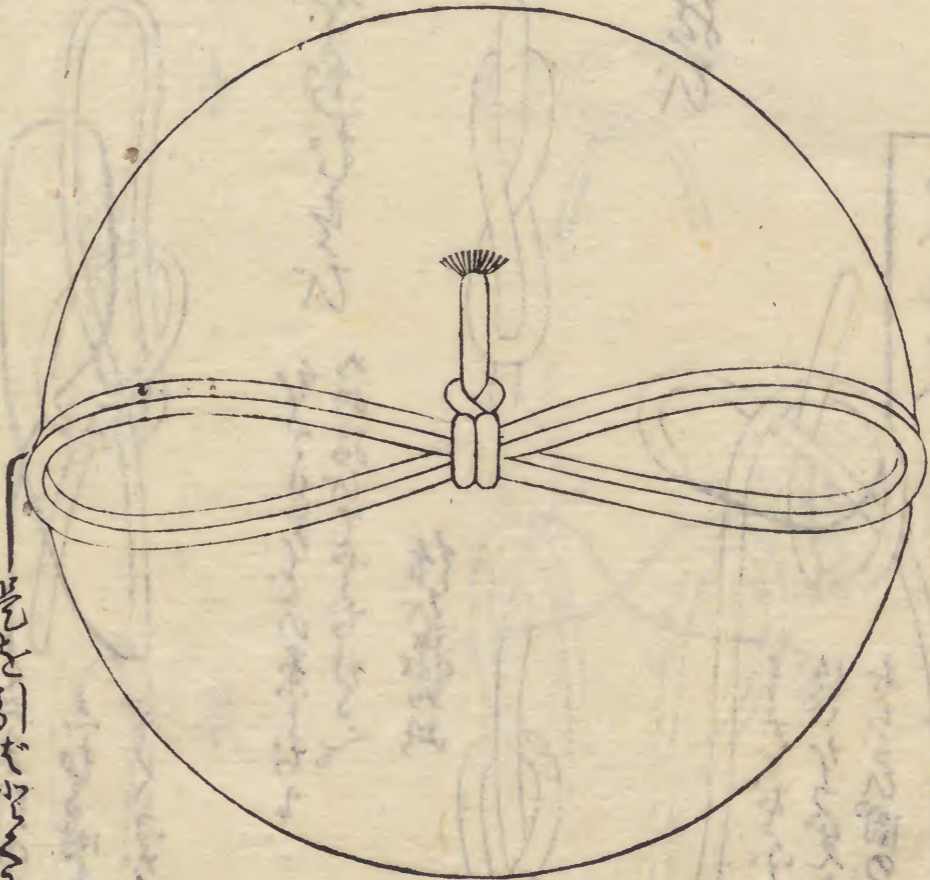


一はら結び



この糸は小糸の如くたる付此結び 流ぐなうの先を上下して十字字子 おちびの如く右糸をこのみ

まじりしきり



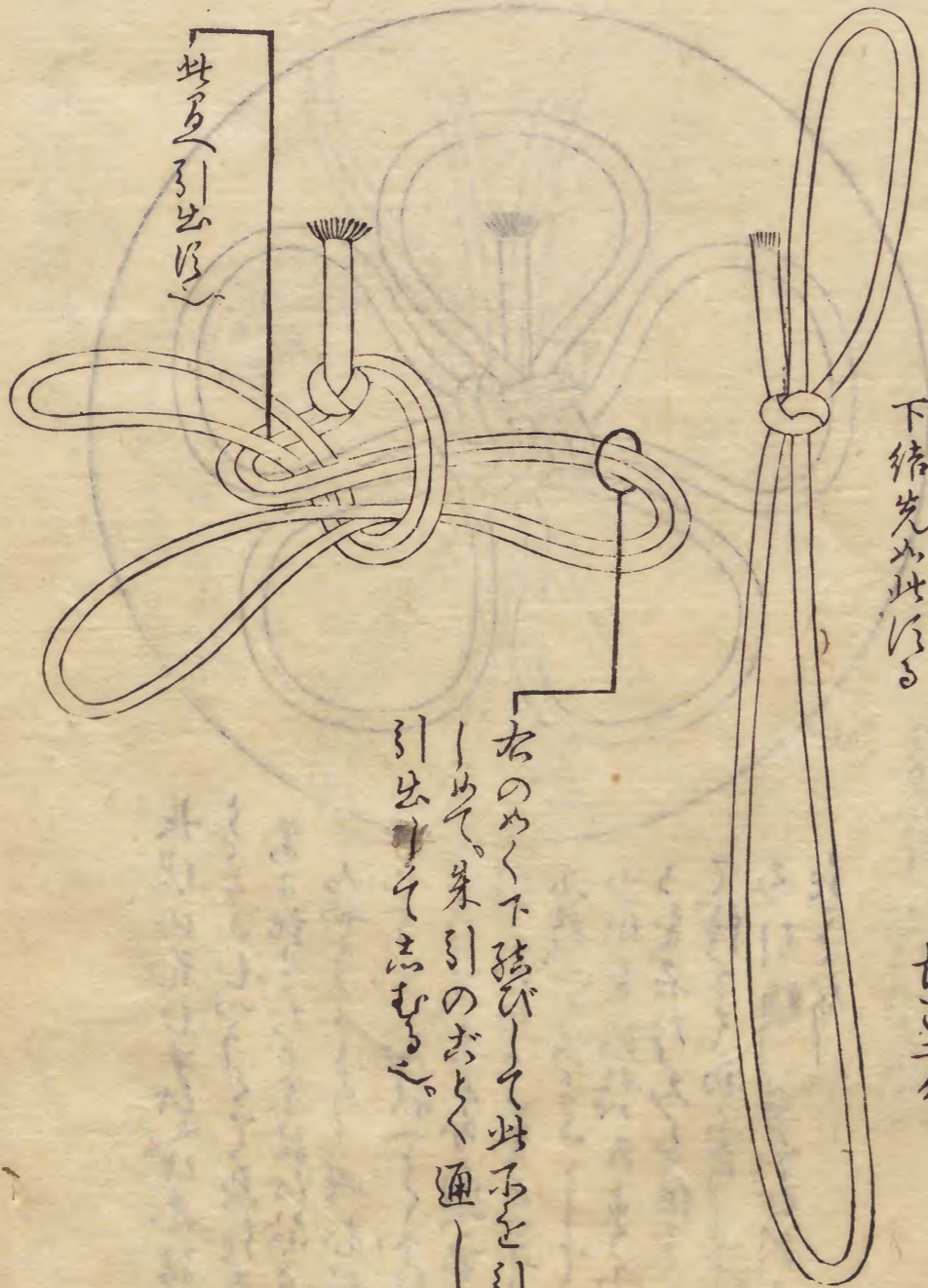
長供の結び指へ
むび方た
志る

長二寸五分

長さ一寸五分

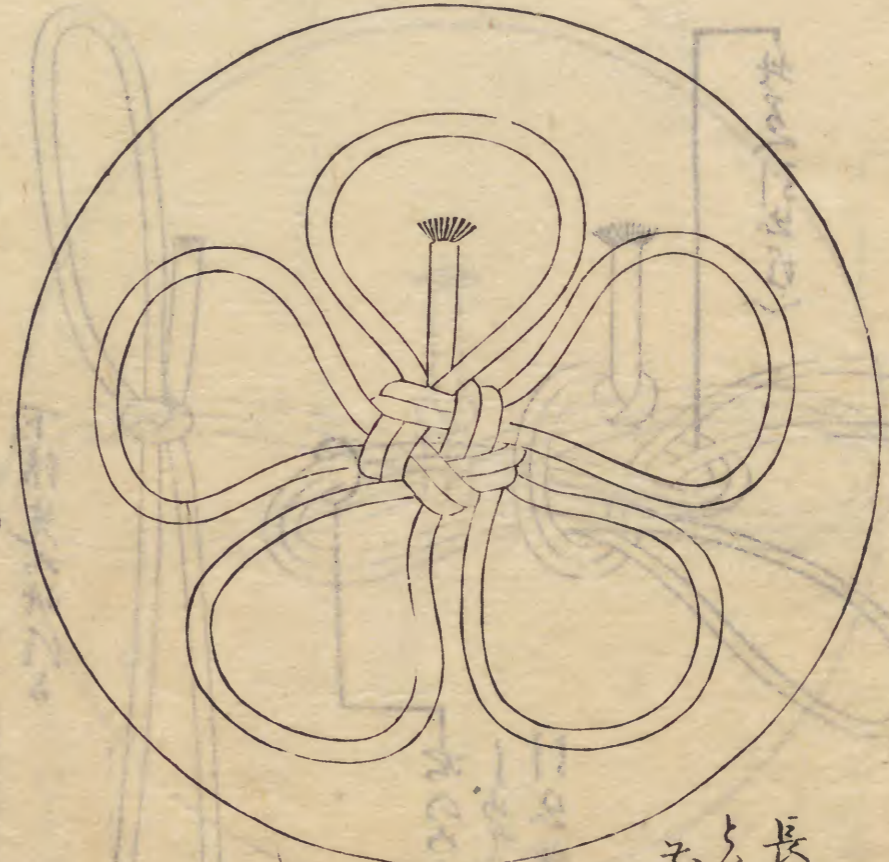
下結先此

長さ二寸五分

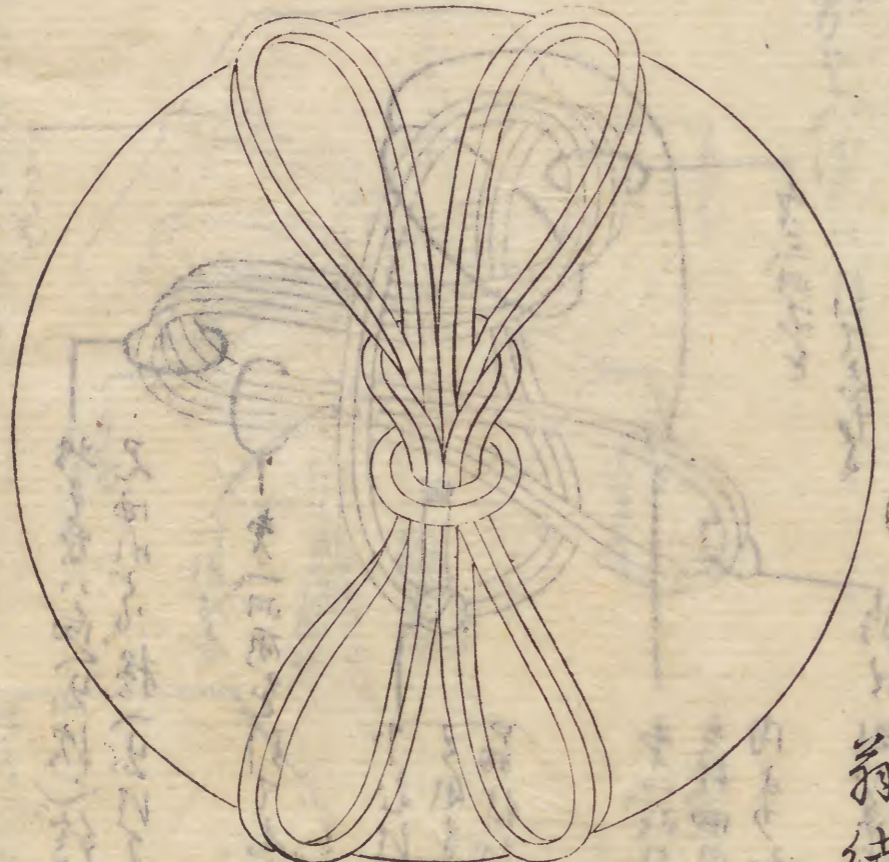


此より引出

右のめく下結びて此を引
しゆ、朱引のおとく通
引出す志む



長緒の花むすびは、長緒むすびハ
 とくむすびとして、熟れたる
 おも記したる、長緒むすびを方
 々和すて、此むすびを
 やる。先、何れ下下結び
 をして、おとをか向、二か
 引、おのの、をこつふまな
 小折、二の、の、二、
 われを、は、れ、が、五、も、う、ふ、毎
 ろを、石、が、み、を、紐、を、紐、
 て、結、子、を、初、お、き、
 み、引、通、
 た、な。



長緒
 結
 是も長緒ハ
 結、お、た、の、也。

一 前むしび結び指



此は前むしび結び指の結圖小柄へ出たる指小
又申れども横へ出はるゝハあるべし

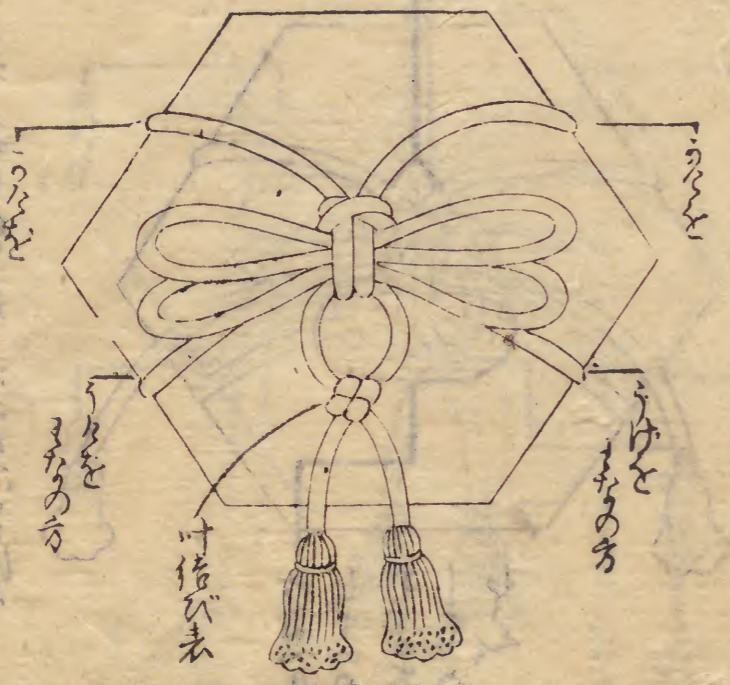
一 此所を引て志むる

下むしびびて、右方同一根より
それを引て引るなり、お
結びを引るなり。

一 此わかを上の四筋のまな
りけ、四筋のあなを此よりなる
内より引て引出—志むる

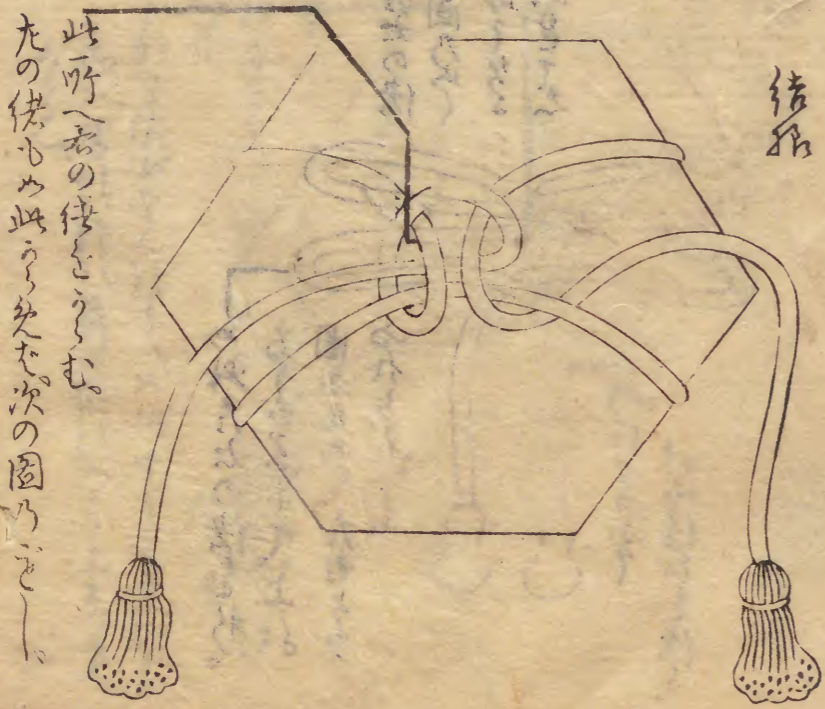
此より引て志むる

一 貝桶の供むしほり結び
男やんほり



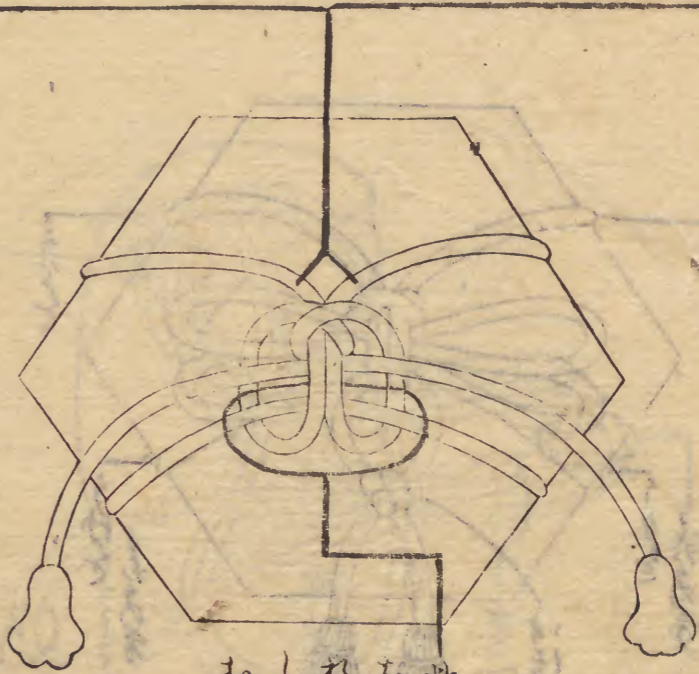
をやんほりよやんほりある
ひまると叶むしびふほり

結指

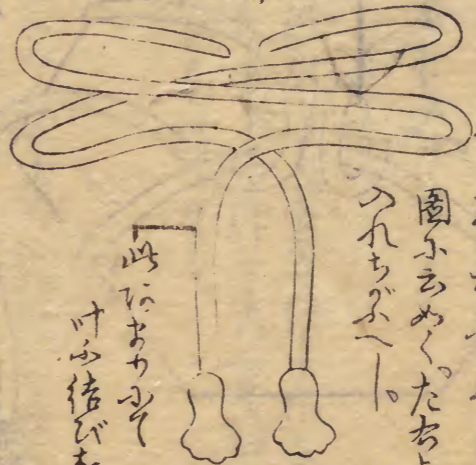


此所へ右の供むしほりむ
丸の供むしほりむ、次の図なり

此所め此丸右の緒をかりみ十字字まほ。



此回へ左の緒を下の圖乃れくおる方まほして入るておむ。



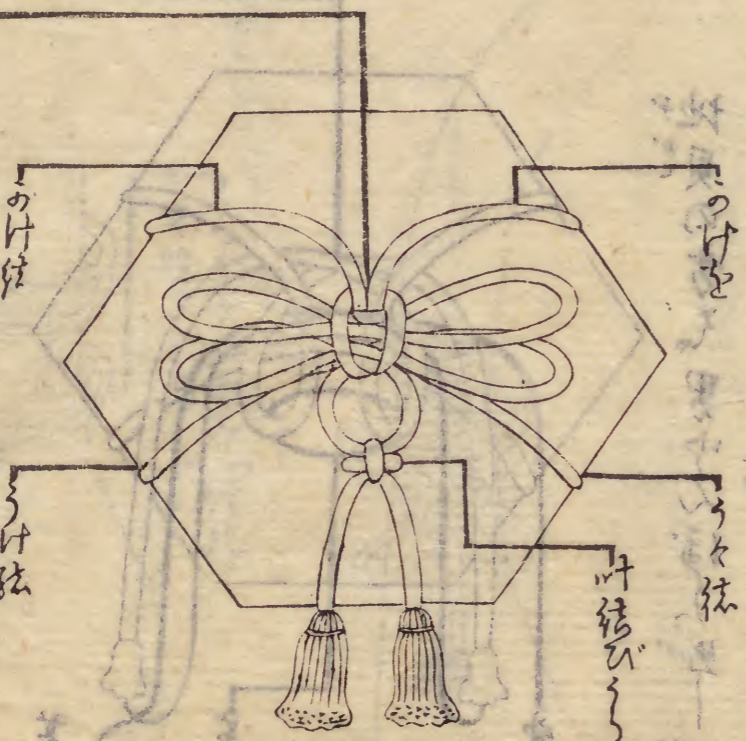
め此左右の緒をかりおる方ふして上れ圖ふてめくたおよりつれちふへ。

此にちりて叶ふ緒びをほ。

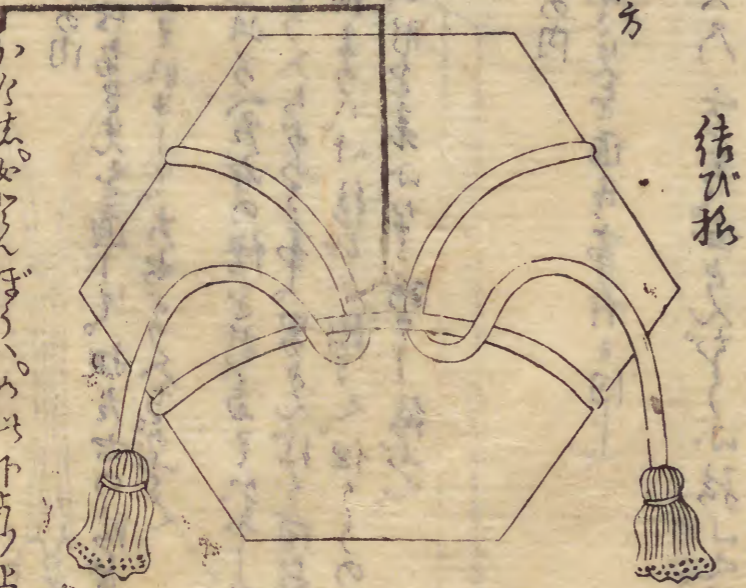
此所へ左右の緒をかりみ十字字まほ。此の緒をたいた右におへ出へ。

一女おんぢり

女おんほく、男おんぢりをうらぶへた。



此所東の方西へ十字字まほ。



結び指

かへ法。女おんほく、此下より之かへは、男結び指の圖にめく上よりま。



此の四つのはねをさへてはみよはゆる



一の目なをせしめし引出は

一鳥帽子の紐結び拵

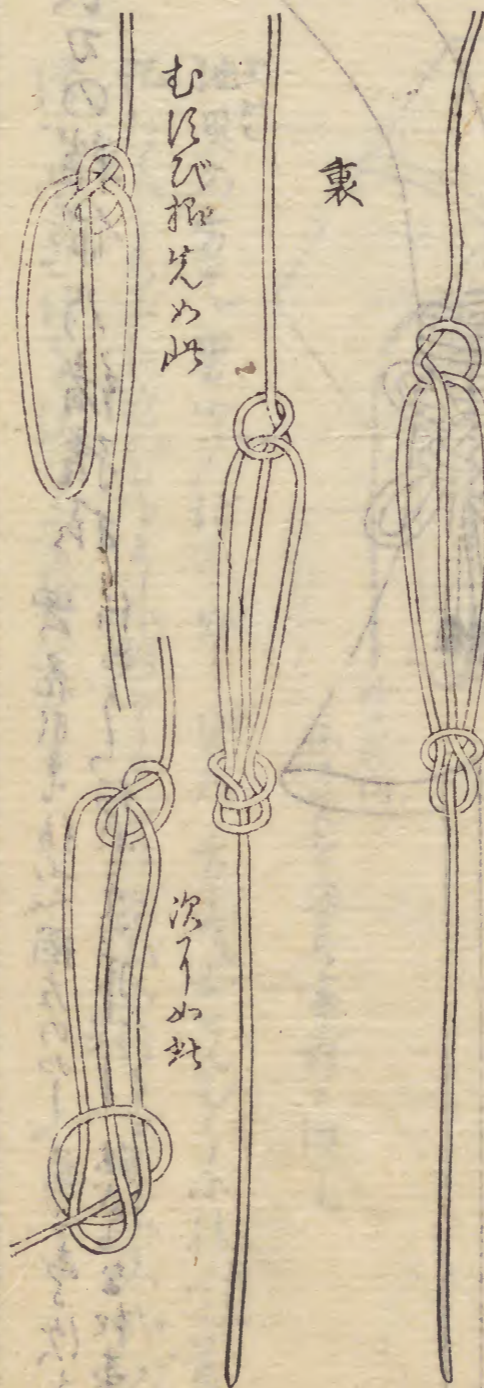
表

裏

むらび拵えぬ此

前よりたしなむ。ね又よりくはく。

次より此



一蝶結

琴袋小付



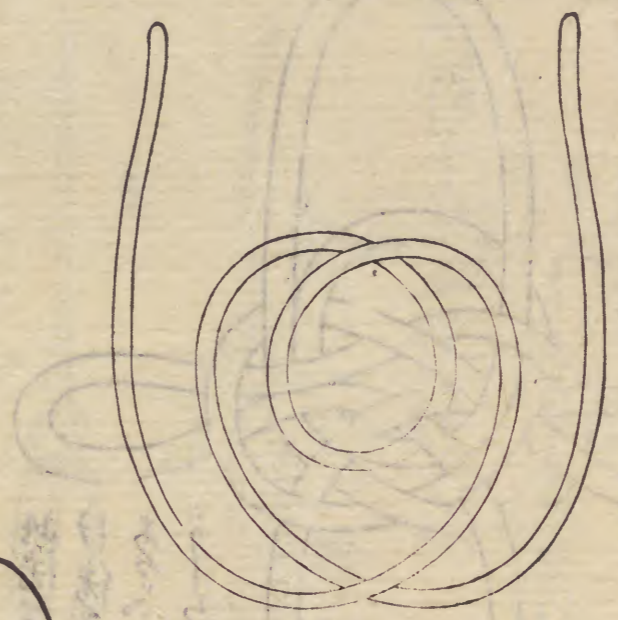
此結二筋より二ア付。うけ結よりやんげうけある。うを小はえんげうらな。

是よりむらび

袋の合せあり小二つ、ふむむらびを付。その二つの内一は、此のたのむをえんげうがらう結む。おふむむらびよりなる。えんげうがらうの結びやうは、末よりめ次。

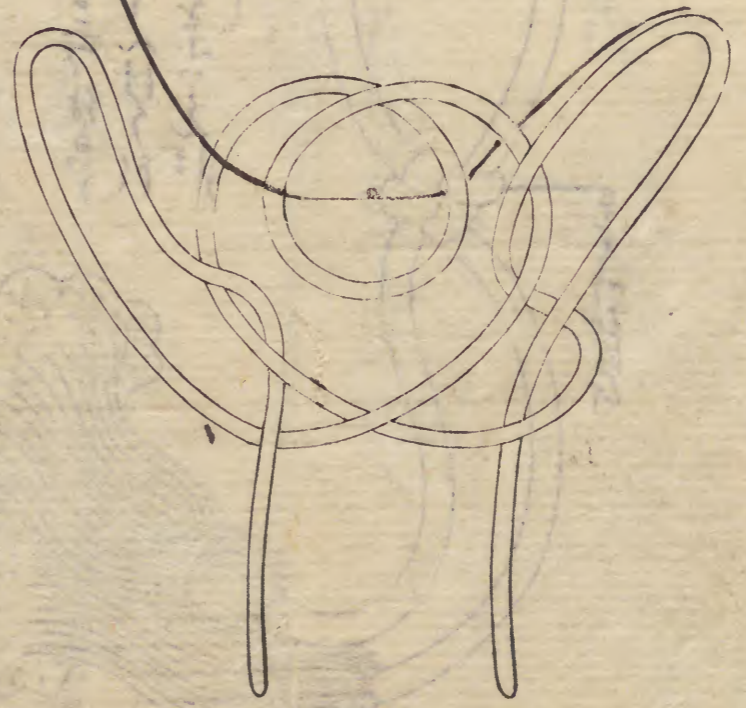
第一

結根先如此



第二

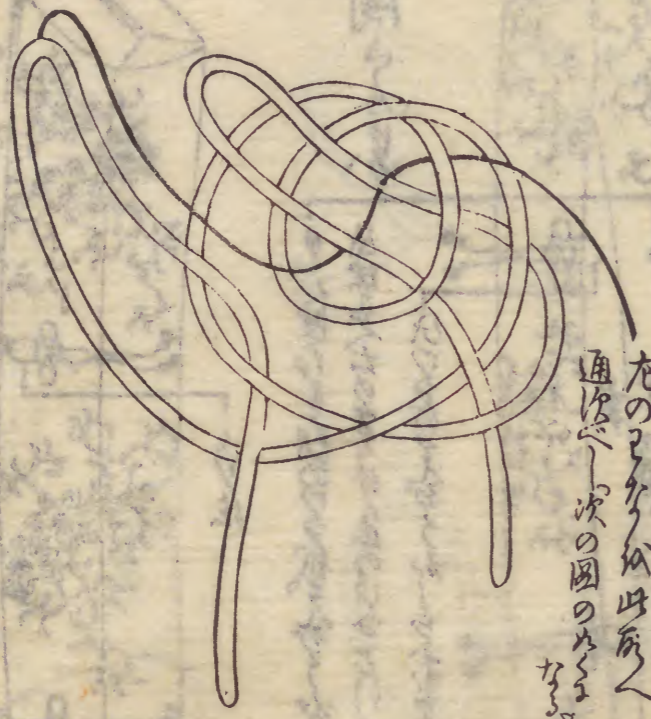
次ふれ此



右の方れまをば中の輪の内へ下より上へ通せだ。
次乃圖のよとくまな。

第三

次ふれ此

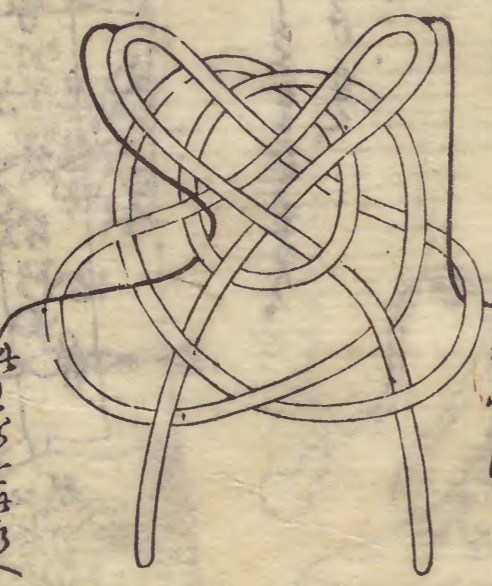


右の方れまをば中の輪の内へ下より上へ通せだ。
次乃圖のよとくまな。

右の方のまをばと通したる圖

第四

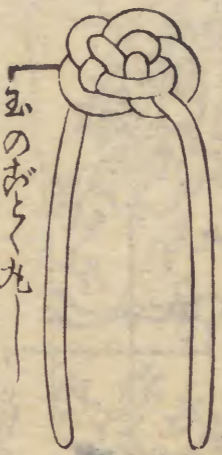
次ふれ此



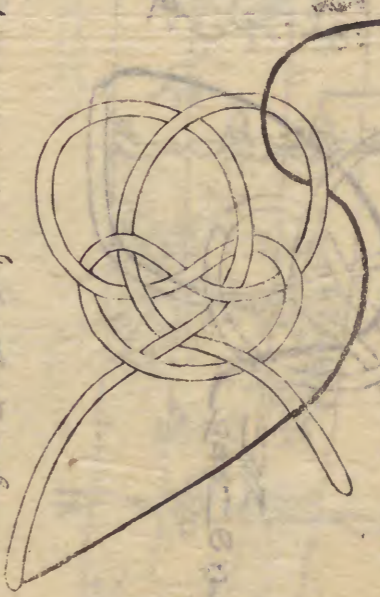
此をなと此所へ
引出た。

此をなと此所へ
引出た。

一 もんがら



玉のあら丸



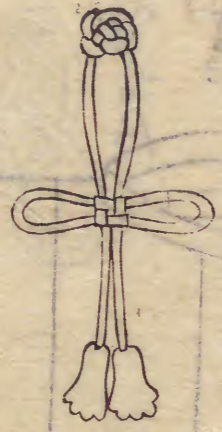
結び紙の先方のところ結びとして試みのごとく
丸の先と右の方のほうより上より引る

もんがら既へ變つて既結備。じりて既をよの結ふのむきだしてむきびるよの
 上の口まの結はもんぼう既むきびる一方の緒はむきびるもんぼう既ふ
 引かけてと既むきびるもんがらのもう一つ又絶かりきぬきよの右の
 肩の上ふもんは既ふもんぼう既紙付て上へのま緒と引るま
 と既むきびる。○右は右のま緒と結むきびるま緒のま緒の結の紙紙
 引通して大りまともふ引既先てじり後より。揃え既の中を每

絶へ束帯(片上)三
著元装束ナリ

くぼめて既へ結むきびるもんがら。右は右のま緒と引るま緒の結の紙紙
 引通して大りまともふ引既先てじり後より。揃え既の中を毎

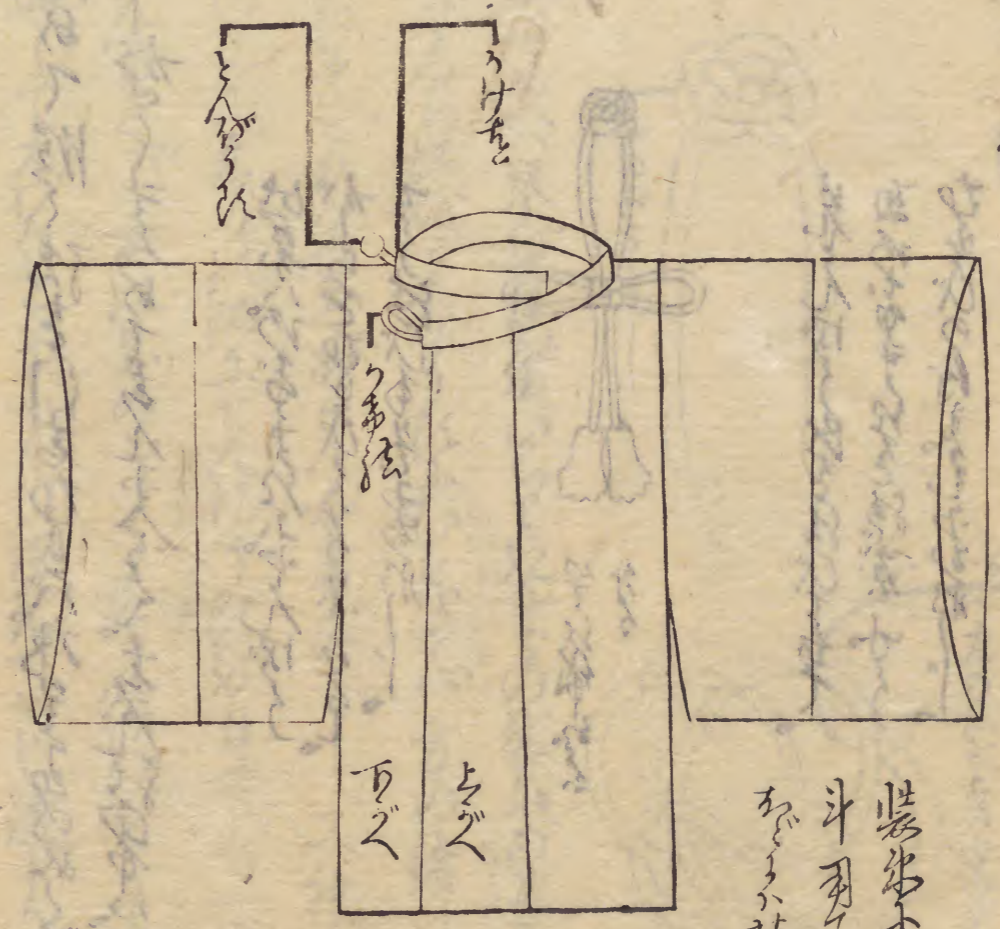
時糸ハ折るま緒はもんぼう
がらとむきびるま緒を
ま緒結むきびるま緒



結び紙の先方の
ま緒

先もんぼう既を結びて
右のま緒と結むきびる
むきびのま緒を引る

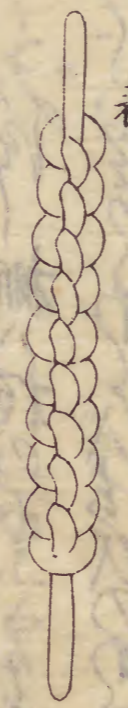
装束小もんがうぐらうのり



装束小もんがうぐらうのり
斗用てゆが手紙
あふせびん

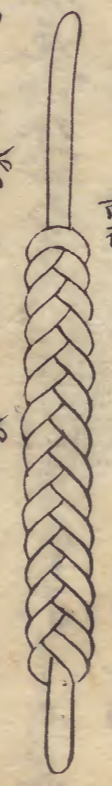
一 ひとむしび

表



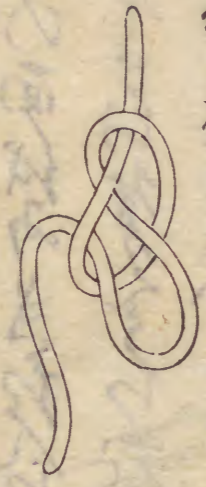
ひとむしびと書く。いよゝのひとむしびをそだ
貝のうらむしびとよむむしびとよむ

裏

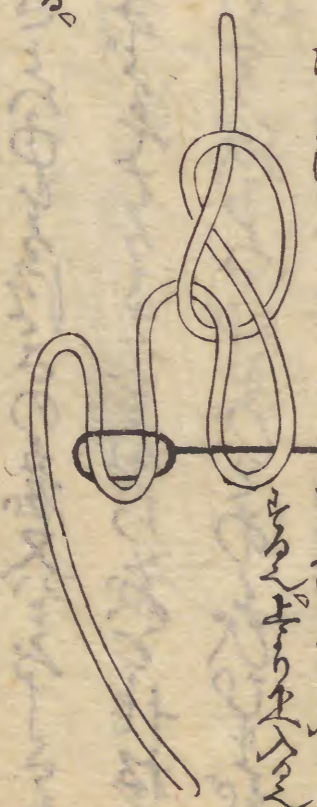


ひとむしびと書く。いよゝのひとむしびをそだ
貝のうらむしびとよむむしびとよむ

結び極えび

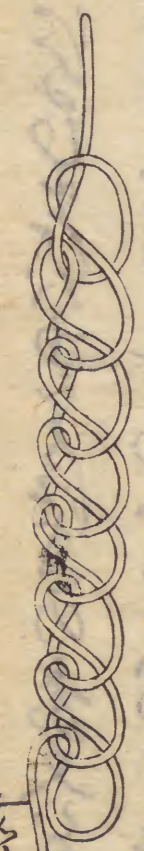


活糸



活糸引のてしづら
口のうらも入る
とらふより入る

右のよむむしびとよむ

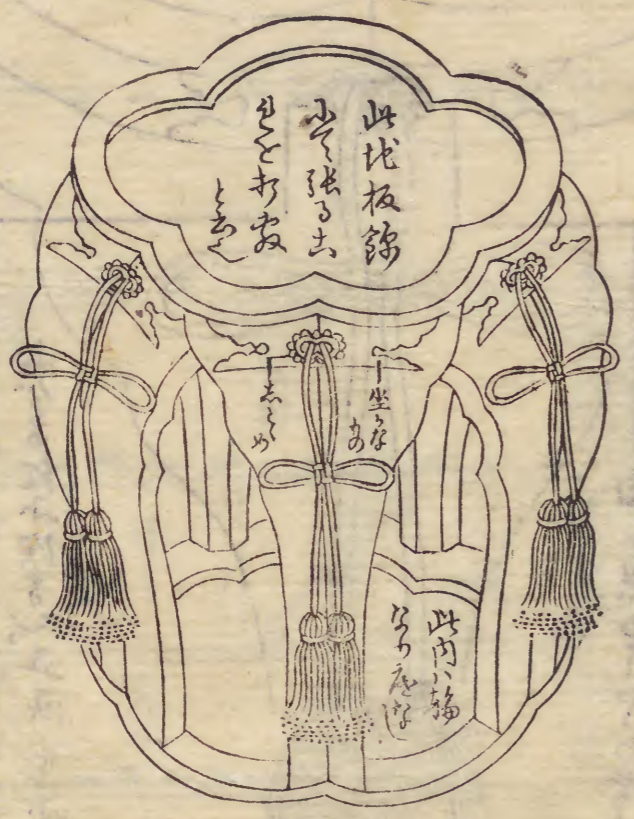


活糸引のてしづら
口のうらも入る
とらふより入る

右のほしむびのゆるはきしの巻又ハ三條一棚きぬらおん
 くらけつふ用のゆるはきとよ申るはきこの巻又ハ三條一棚
 などの面紙やきねんをきとるるをそのら敷と地板の
 備えとらけつらら敷のめがけぬむびとわびむびを
 かるるゆるはきとほしむびのゆるはきとらけつらら敷と
 法びのゆるはきとらけつらら敷のゆるはきとらけつらら敷
 むびのゆるはきとらけつらら敷のゆるはきとらけつらら敷
 たらとむび一棚ハ柱のゆるはきとらけつらら敷のゆるはき
 とらけつらら敷のゆるはきとらけつらら敷のゆるはきとらけつらら敷
 法びとらけつらら敷のゆるはきとらけつらら敷のゆるはきとらけつらら敷

一^{ユスルギ}淋^シ坏^キの^シ臺^シ全^シ圖^シ

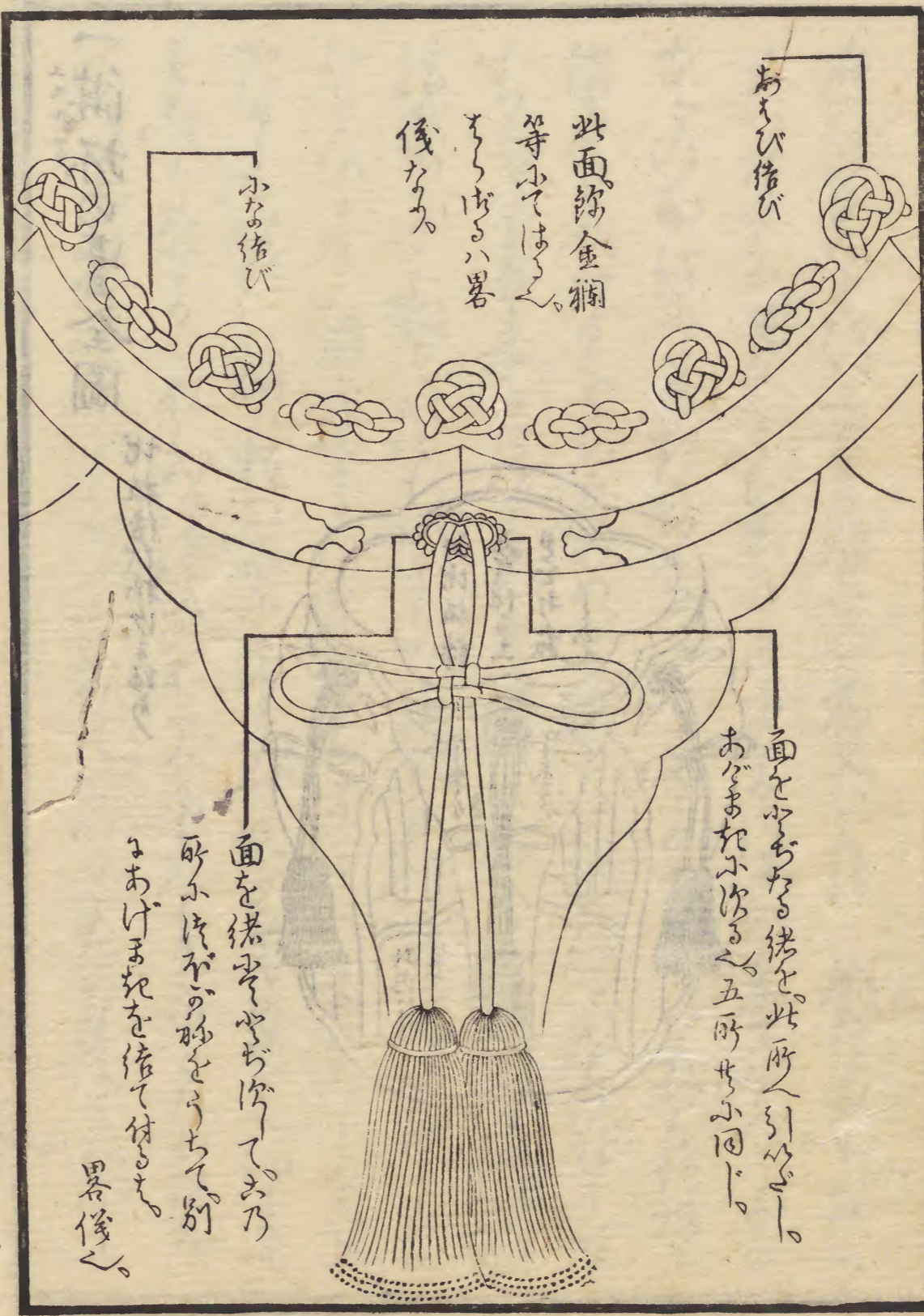
地板^シ法^シび^シ振^シ次^シあり



おもひほび

此面錦金襴
等小ては
もろいハ暑
候なり

小なほび

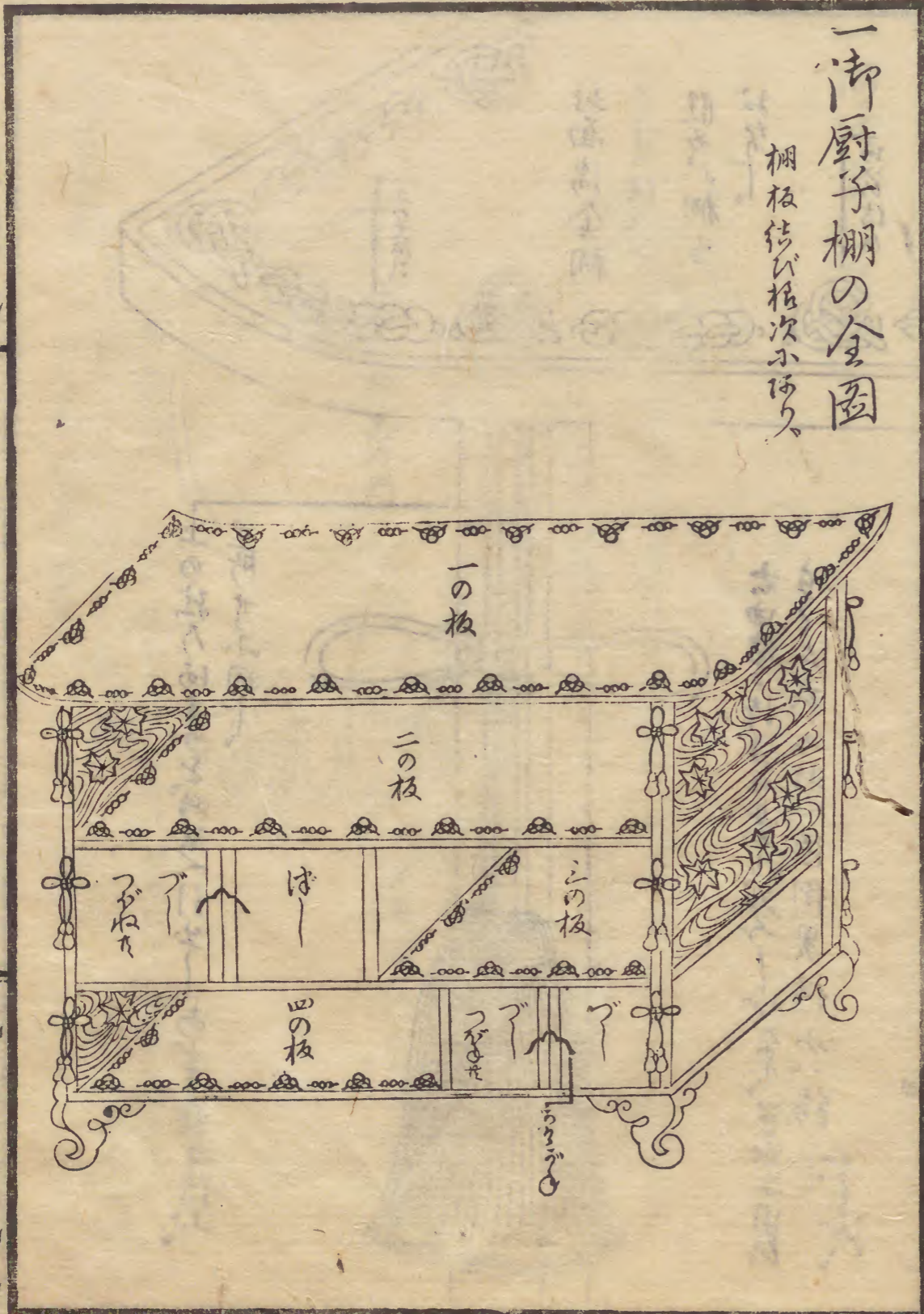


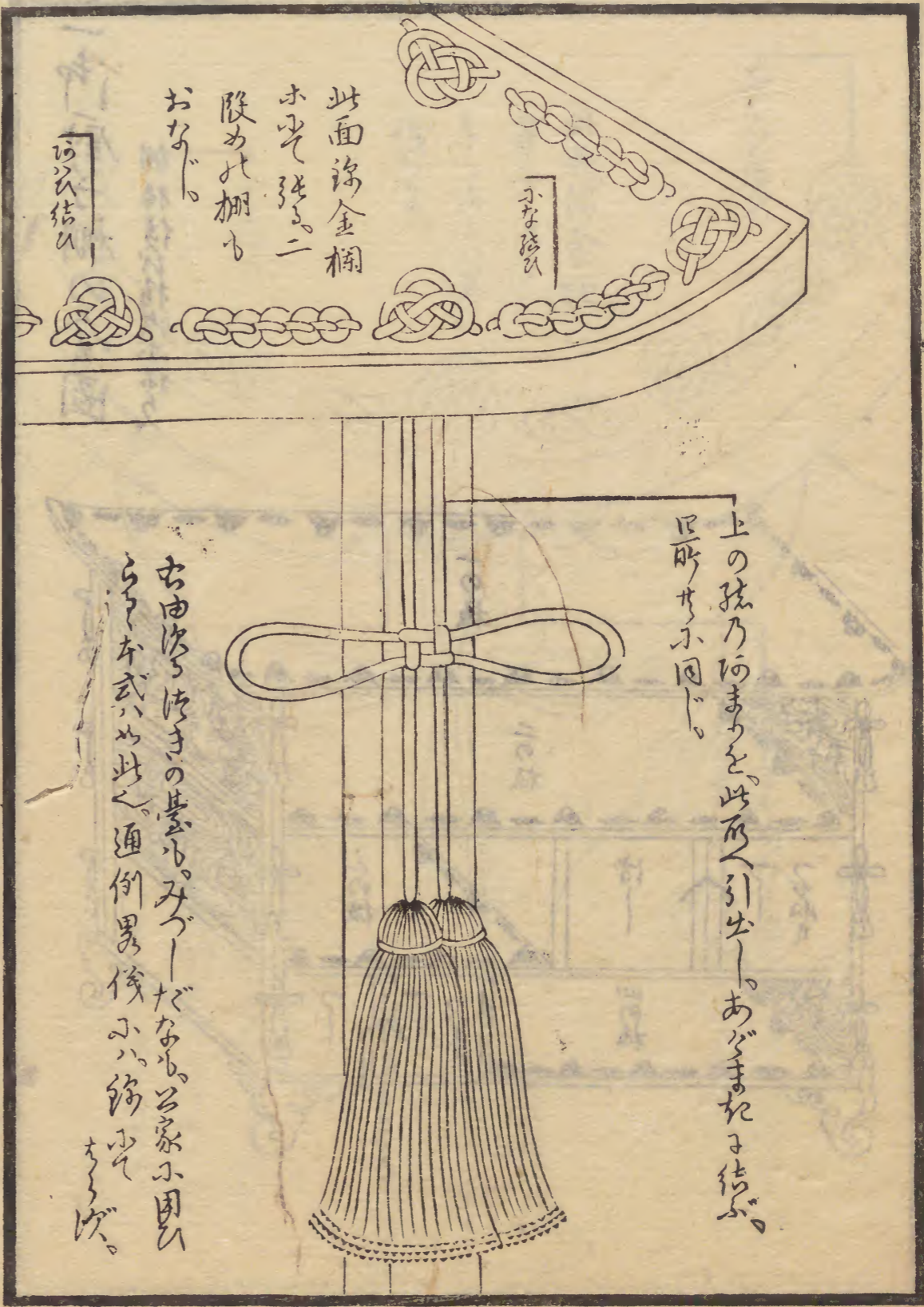
面をよちたる緒を此所へ引込
おがまた小はる之五所せふ同下

面を緒をよちけりて六乃
所小はるが緒をうちて別
はあげまを緒て付るも
暑候なり

一 御厨子棚の全図

棚板はむ板次おほり





此面縁金桐
ホ光張る二
段め此桐も
おなじり

おなじり

おなじり

上の弦乃阿まうを此所へ引せり。あがまたり結ぶ。
此所へ引せり。

古由流り流すの基も。みづーだなるも。公家不困ひ
らる本式み此へ。通例男候ふ。飾り
まじり

一阿はまむ流び



結を括先此

流小此

此あづま結を凡帳不付る

此朱引のよやく引通し。志むらう。

一六 ^{ロソコク} 葉結

貞丈按、類聚雜要抄ニ稱、并造等ノ制作式、繪畵ニ妻々見エタ
レ氏、ト子造ニハ葉結ト付ル、ハ見エズ、此結ビラ付ルハ、近代ノイナレ、右ノ
雜要抄ハ、清閑寺殿家藏ノ書ニ



或説云、此む次びハ、む、ち志々ぬ、不付、之、前、不、志、一、た、あ、ふ、い
む、次、む、を、清、く、ん、ん、ら、む、次、び、た、ま、い、

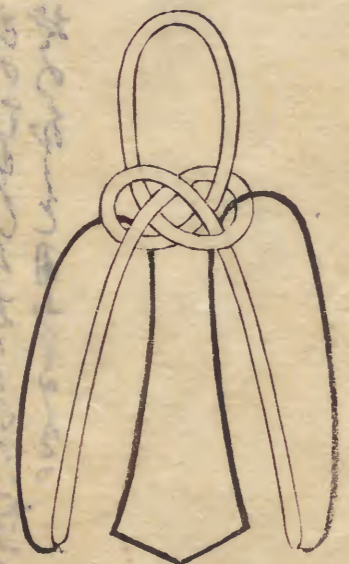
おあづまむ次びハ、糸結びの付やう、乃事ハ、公家の古実、知事たる
人、不、た、ら、ぬ、べ、ら、む、次、む、や、う、の、事、と、

一七 ^{ハク} せんぼうむぎ

ハク、せん、ぼ、う、む、ぎ、ハ、并、た、た、む、を、結、び、



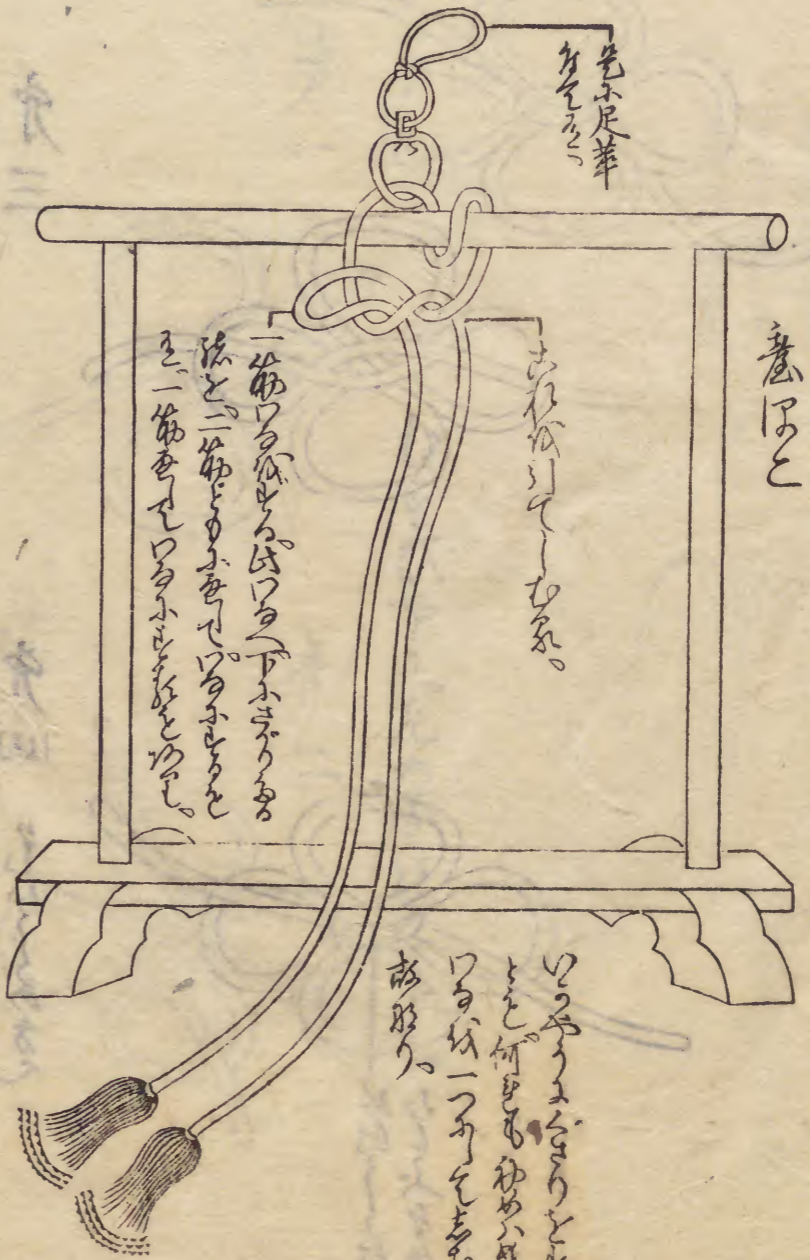
法、次、の、結、び、の、



此、の、引、糸、子、也

一考はたね三品

大徳のこころは三品あり

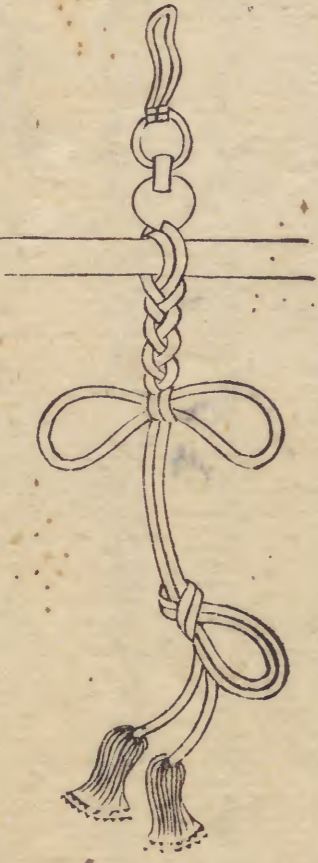
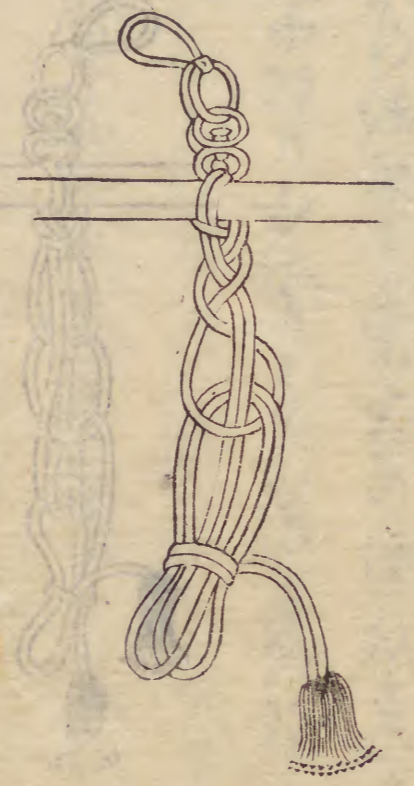


意匠と

色不足華

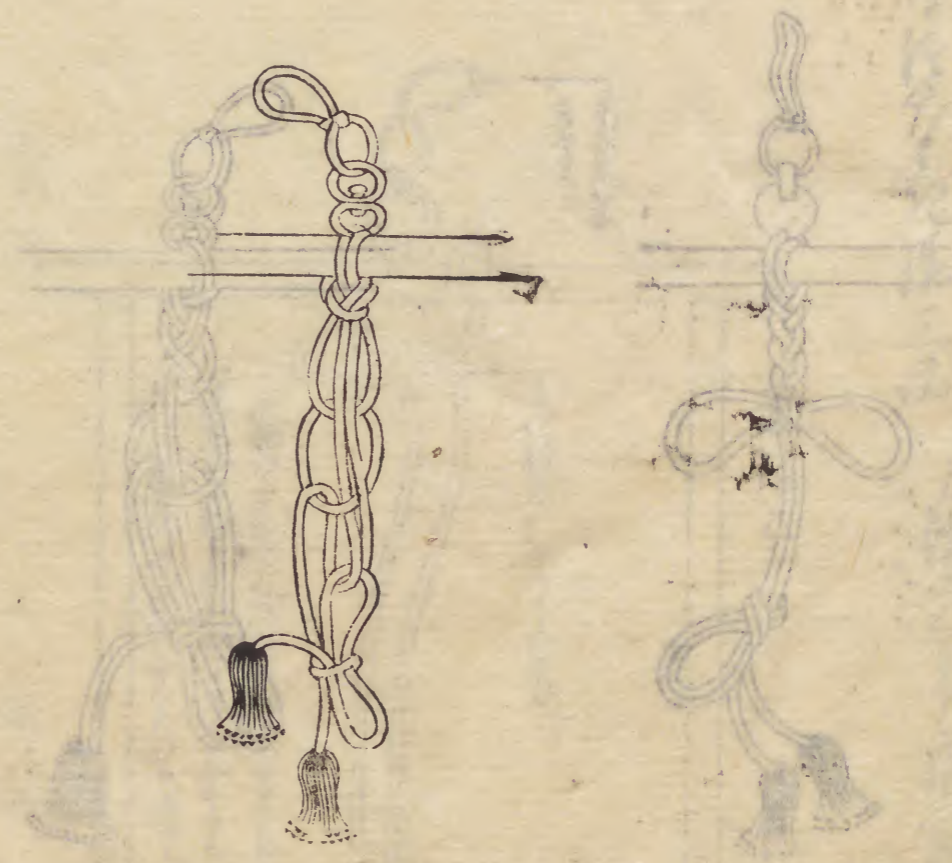
一節の心は三品あり
二節の心は三品あり
三節の心は三品あり

ひらきよふたりのこと
こと何れもわかれぬ
つるは一つをまじり
あはれ



此一考りまきりかかのみは
初一つは三品あり二節も三品あり
少くも五つは三品あり七つは三品あり
八つは三品あり九つは三品あり
十つは三品あり十一つは三品あり
十二つは三品あり十三つは三品あり
十四つは三品あり十五つは三品あり
十六つは三品あり十七つは三品あり
十八つは三品あり十九つは三品あり
二十つは三品あり

けりまきりかかのみは
初一つは三品あり二節も三品あり
きりまきりかかのみは
一考りまきりかかのみは
二考りまきりかかのみは
三考りまきりかかのみは
四考りまきりかかのみは
五考りまきりかかのみは
六考りまきりかかのみは
七考りまきりかかのみは
八考りまきりかかのみは
九考りまきりかかのみは
十考りまきりかかのみは



せんせうむきびのさくらま
 海流のちかき船なれ
 ぎうにあらまのりか
 り。一方長く一方を
 かる形にねまゆり紙と折
 之下を二巻十六字ふ
 やうふさうひる巻て裏の
 方より。標を巻ぬり
 あり。

あのさきりぬちかのま
 初二つ口をさして二巻と一
 巻をつてさきひらひらと
 入る。さきひらひらと何と
 なるか。さきひらひらと
 かな。同じくさきひらひらと
 内。みどら。さきひらひらと
 七尺方とさきひらひらと。二巻
 すすんで下よりさきひらひらと
 あり。

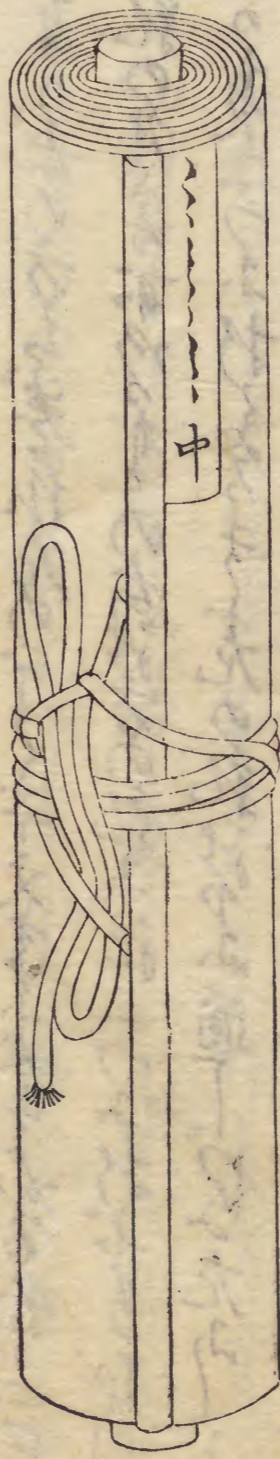
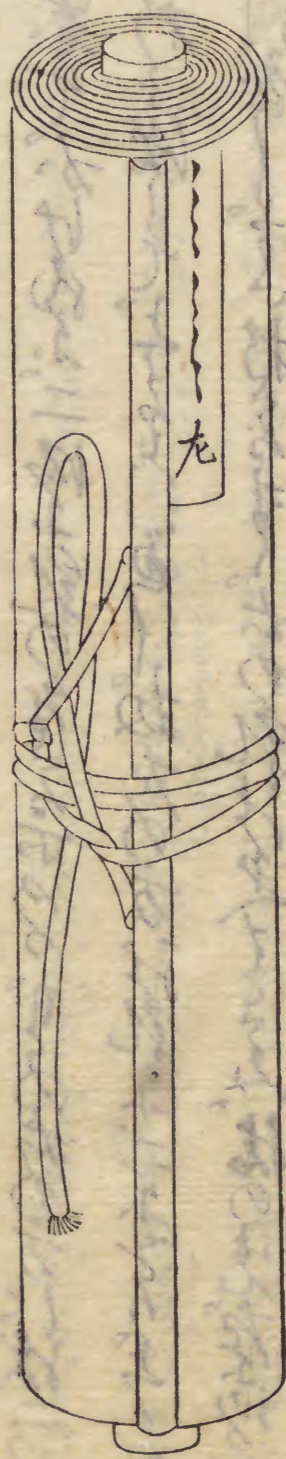
右道かの結形も。若家の流儀と云ふも何れも。世に
 用ゑるなり。がねのさうふ流儀なり。

寶曆十四年甲申二月十日

伊勢平藏 貞丈書

糸言
 せんせうむきびのさくらま
 海流のちかき船なれ
 ぎうにあらまのりか
 り。一方長く一方を
 かる形にねまゆり紙と折
 之下を二巻十六字ふ
 やうふさうひる巻て裏の
 方より。標を巻ぬり
 あり。

右の三糸言の巻く層一。三三件伊織と圓宗の院形。

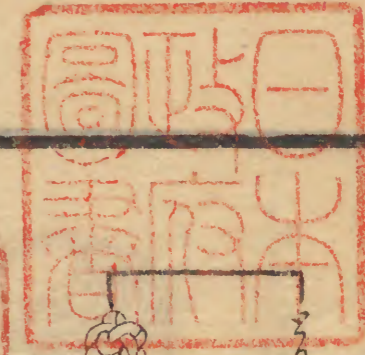


三糸言

三糸言

八十 糸言色成坂

一笠の裳

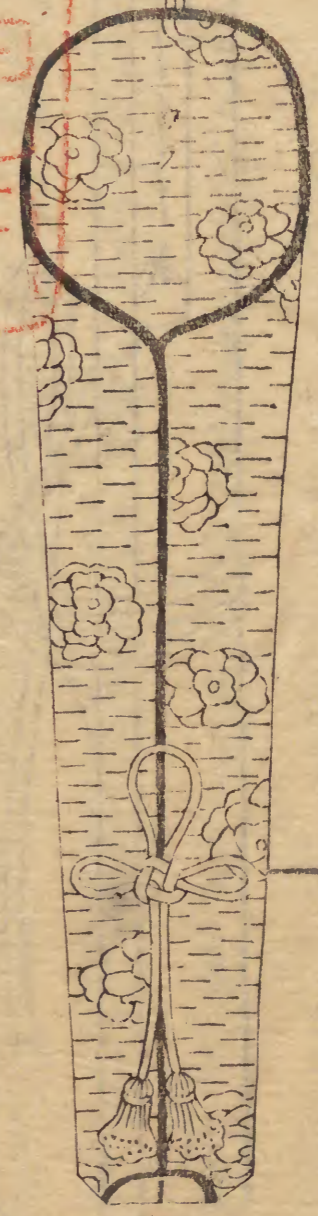


右樂人の家小石



毎のふせ袋

右のふせ袋をこしらへたる



右のふせ袋をこしらへたる

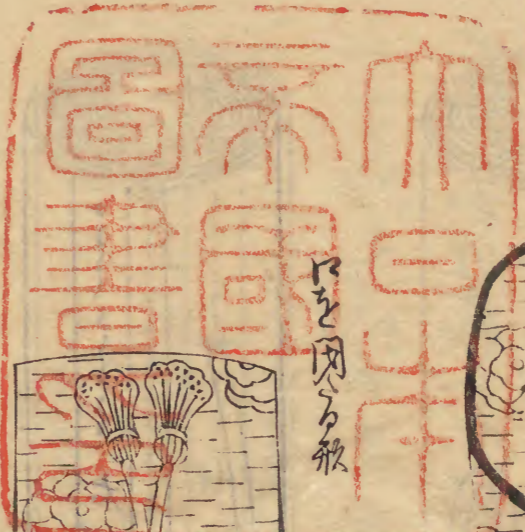
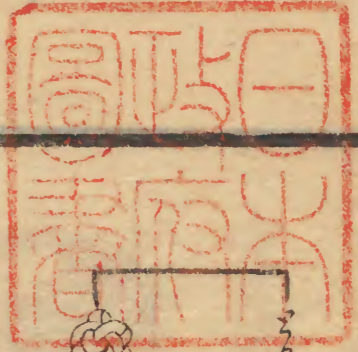
糸唐

右のふせ袋

右のふせ袋

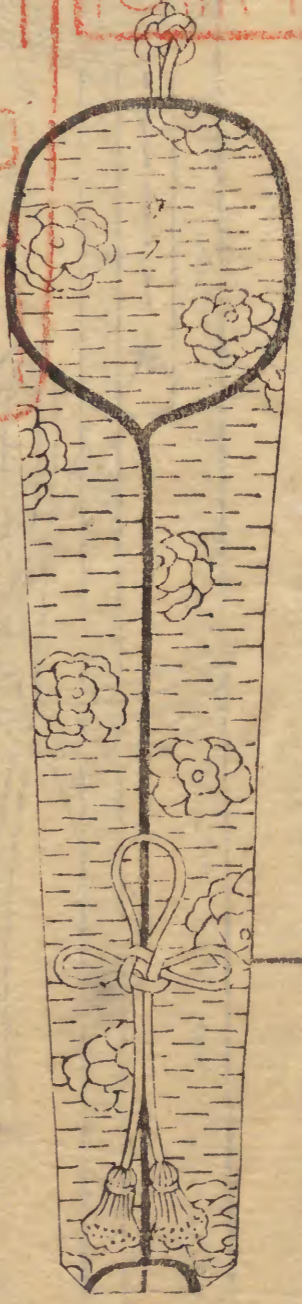
Handwritten notes and stamps at the bottom left of the left page.

一笠の袋



口を閉する紙

口紙開する紙



糸底

口を閉する紙

口紙開する紙



右樂人の家小の袋

口紙開する紙

本勝
本筆
本筆

